



人間学群

教育学類

心理学類

障害科学類

2023年度入学案内

教育学類

- 人間形成系列
- 教育計画・設計系列
- 地域・国際教育系列
- 学校教育開発系列



筑波大学

University of Tsukuba



2023
College of Education
School of Human Sciences,
University of Tsukuba



目次

教育学類	2
心理学類	18
障害科学類	26
人間学群の教員	42

50周年の節目から 未来を目指して

人間学群長 樋口 直宏

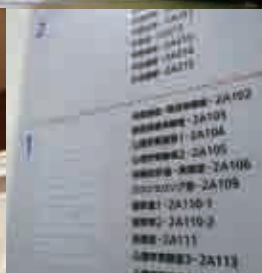


人間学群は、筑波大学開学後の1975年に第二学群人間学類として設立されました。その後、2007年の組織改編により、現在の人間学群および教育学類、心理学類、障害科学類という体制に移行しています。1872年師範学校設立時の「時代が必要とする人材養成の責務」という理念の下、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京教育大学という歴史を受け継ぎつつ、日本の教育学、心理学、障害科学の研究と教育を常にリードしてきました。

人間学類創設時に、先達が目指したのは、「未知なる人間の真の姿を科学的に追求し、人間の本性やそのあり方を学際的な広い視野から究明する学問」でした。現在も、人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらを活用し、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、社会に広く貢献することができる人材を育成することを、人材養成目的としています。

人工知能やロボット研究の発展は、人間の行動や思考のメカニズムを明らかにしてきました。それとともに、「ヒト」としての人間のあり方や生きざまを問い続けることも、これからの社会における重要な課題となっています。大学においても、文系や理系を超えた学問領域の融合が行われ、創造的発想や柔軟な思考が一層求められます。このような社会において、人間について多方面から研究を進め、研究職、企業、行政、教育、福祉医療など、これからの共生社会を創造する人材を育てることが、人間学群の責務であると考えています。

人間学群は、2025年に50周年の記念すべき節目を迎えます。人間を科学的に追求し、その本質を究明する人間学群の原点を大切にしながら、教育学、心理学、障害科学の専門分野を融合して、さらなる発展を目指していきます。みなさんと一緒に、人間学群で知恵と発想力を鍛え、感性を涵養しながら、一緒にこれからの社会を創造し牽引する日がくることを期待しています。



目次

ようこそ教育学類へ	4
教育学類のミッション	5
履修の進め方と授業科目	6

系列紹介Ⅰ：人間形成系列	7
系列紹介Ⅱ：教育計画・設計系列	8
系列紹介Ⅲ：地域・国際教育系列	9
系列紹介Ⅳ：学校教育開発系列	10

卒業生の言葉	11
教員紹介	12
卒業後の進路	13-14
入試の仕組み	15
教育学類へのアクセス	16

ようこそ教育学類へ



みなさんは、筑波大学人間学群教育学類に対してどのような印象をお持ちでしょうか。本学類の特徴をキーワードであげるとすれば、「歴史性」「多様性」「学問性」「学際性」「国際性」の5点にまとめることができます。

「歴史性」とは、教育学類のもつ長い伝統を意味しています。筑波大学の前身は東京教育大学(1949-1978)であり、現在の東京キャンパスに位置していました。教育学類は、東京教育大学教育学部教育学科を引き継いでおり、さらに東京文理科大学(1929)、東京高等師範学校(1902)、東京師範学校(1872)とさかのぼれば、実に150年近い歴史を有しています。当然、この間多くの教授陣と卒業生を輩出して、日本の教育界を研究と実践の両面からリードしており、「教育の筑波」という言葉は現在でも広く伝わっています。

「多様性」とは、教育学を俯瞰的にとらえ、人間形成としての教育のあり方を追究していくことです。教育哲学、教育制度・行政、学校経営、比較国際、教育社会学、生涯学習、教育方法、教育臨床、教科教育、道徳・特別活動・キャリア教育といったさまざまな専門分野は、みなさんが想像している以上に教育学の奥深さを感じさせてくれるはずです。進路についても、小・中・高等学校の教員はもとより、文部科学省や教育委員会といった公務員や、教育関係の民間企業といった多様な道に、卒業生は進んでいます。

「学問性」とは、一人ひとりが研究者としての意識をもち、関心のあるテーマを深めるこ

とを意味します。筑波大学は大学院が充実しており、教育学学位プログラム(博士前期・後期課程)に所属する大学院生との交流も活発に行われています。教員の指導の下、文献講読や調査に取り組み、質の高い卒業研究を完成させるとともに、自らも大学院に進学して大学教員を目指す学生が多いことも特徴です。

「学際性」とは、他分野の学問や従来の枠組みに収まらないテーマを学習することで、幅広い教養と総合的な智を身に付けることを目指しています。これは筑波大学の建学の精神でもあり、学部・学科という名称を使用しない点に学際性の姿勢が表れています。人間学群においても、隣接する心理学類、障害科学類の授業を積極的に履修しながら、学生の知的欲求に応える環境を用意しています。

「国際性」とは、海外に関する経験を積みながら、国際人としての資質を高めることを意味しています。さまざまな海外留学プログラムや世界各国からの留学生との交流を通じて、グローバルな見方や考え方に触れるとともに、学習においても英語の文献を読みながら、研究動向および海外の教育や学校の現状について学ぶことが期待されます。

学習に限らず、自分のやりたいことを自らの責任において自由に実行できることが、大学の魅力です。みなさんと一緒に、教育学類で学べる日が来ることを、教員一同楽しみにしています。

教育学類長 佐藤博志

教育学類の2つのコースと4つの系列

教育学類では、総合的な教育学を構成するさまざまな研究領域のつながりを考えて、2つのコースと4つの系列を提案しています。

2年次になると、小学校教員免許状の取得を強く希望する学生は「初等教育学コース」に所属し、そうでない学生は「教育学コース」に所属することになります。「初等教育学コース」に所属する学生は、「学校教育開発系列」に含まれる、小学校教員免許状の取得に必要な科目の授業を集中的に学びますが、「教育学コース」に所属する学生は、「人間形成系列」「教育計画・設計系列」「地域・国際教育系列」「学校教育開発系列」という4つの系列の中から、特に関心のある系列を1つ選び、その系列に含まれる授業を集中的に学びます。どちらのコース・系列の場合でも、学ばれた知識・技能を活かして、学生は4年次に、卒業研

究をまとめていくことになります。

また、すべての学生は、4つの系列に含まれる科目を、必ずいくつかは履修しなければなりません。なぜならば、1つの系列のみの知識・技能を習得することよりも、教育学に関する知識・技能を全般的に学ぶことの方が、教育に関連した優秀な理論家・実践家となるには有効であると考えているからです。

教育学類の学生には、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、「教育学」という学問をさまざまな観点から学ぶことが求められるのです。



教育学類のミッション

人間学群における教育学類

筑波大学は創設以来、従来の制度にとらわれない新しい構想の下に大学づくりに取り組んできました。その象徴が、学部代わる教育組織である「学群・学類」という考え方です。2007年度には学群・学類を新たに、それまで「第2学群・人間学類・教育学主専攻」と呼ばれていたものが、「人間学群・教育学類」として誕生しました。人間学群は、人間の発達や形成に関わる学問分野を対象とする学群として、教育学類、心理学類、障害科学類の3学類から成り立つ

ています。教育学類の学生は、3つの学問領域を学際的に学びながら、人間に関する総合的な知識・技能を習得することが期待されています。2021年度からは総合学域群の募集も始まり、人数は少ないものの2年次から教育学類に進む道も開かれています。

研究力と実践力

教育学類は、いわゆる教員養成課程とは異なります。その特色は、教員としての実践力、量のみならず、学問としての教育学を考究しな

がら、研究者としての理論的な力量を身につけることにあります。大学院とも連携しながら、博士号を有する教員や社会人、学校や生涯学習の場で活躍する研究者のような、研究力と実践力を兼ね備えた人材を、教育学類では育成することを目指しています。それは、筑波大学の教育学が求められている使命であるとともに、将来日本はもとより世界の教育や社会を築き変革していく中心的存在となるように、みなさんが教育学類で学ぶ意義でもあるのです。

達成すべき水準

人間に関する総合的な知と教養

複雑化・高度化する現代社会を見据えた的確な人間理解のために、教育学と心理学及び障害科学の基礎を包括した、学際的・総合的な知と教養を身に付けます。

教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方

教育事象に対する鋭い問題関心と教育学全般についての幅広い学識を身に付け、教育事象についての総合的かつ体系的な見方・考え方を学びます。

教育専門家の資質

教育問題に対する理論的思考と現場体験との交流・融合を通して、教育学的専門知識を実践に生かし、実践を豊かに展開する能力を発展させ、学校、地域、国・自治体、企業、国際機関などの様々な「教育の現場」で必要とされる教育専門家としての資質を培います。

教育学の基礎的研究能力

教育に関する研究課題を設定し、史資料やデータを収集・分析しながら、説得力ある一定の結論を導く実証科学的思考力とともに、その成果を的確にプレゼンテーションする表現能力を培い、将来的に教育学研究の第一線を担う人材としての基盤を育成します。

履修の進め方と授業科目

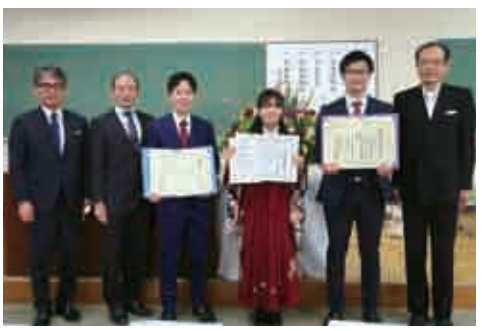
筑波大学は創設当初より、教養課程と専門課程というような区別を設けず、教養教育的な科目（「基礎科目」）と専門教育的な科目（「専門基礎科目」「専門科目」）を有機的に連携させた教育課程（カリキュラム）を編成しています。

1年次の授業科目は、「基礎科目」と「専門基礎科目」が中心です。「専門基礎科目」には「教育学類共通科目」のほか、「人間学群コアカリキュラム」のような人間学群に共通する入門科目があります。1年次の履修では、教育学に加えて、心理学と障害科学という人間学群に属する他の学問分野を学ぶことができます。また、2年次になると、「教育学コース」と「初等教育学コース」に分かれて、「教育学類共通科目」と「専門科目」を履修することになります。2年次に履修する授業は、1年次に履修する授業と比べると専門性が高くなるのが特徴です。また、「教育インターンシップ実践演習」や「教育学研究法」のように、さまざまな体験を通して、教育学を実践的に学ぶことができます。そして、3年次には「専門科目」を履修することで、教育学を専門的に学ぶ機会が増大します。先に教育学類には4つの系列があることを説明しましたが、3年次には4つの系列の授業を全般的に学ぶとともに、特に関心のある一つの系列の授業を集中的に学ぶこととなります。こうして身に付けられた教育学の専門的知識が、4年次に取り組むこととなる「卒業研究」の基礎となります。

これ以外に、教職免許を取得する学生は、「教職科目」を履修することになります（ただし、小学校教員免許の取得を目指す学生は、原則として2年次に「初等教育学コース」に所属したうえで履修することになります）。教職免許に必要な「教育実習」は、筑波大学の場合、4年次に行うことになります（小学校教員免許の場合、原則として3年次に行う）。また、社会教育主事の資格を取得する学生は、「社会教育主事科目」を2年次・3年次に集中的に履修することになります。さらに、筑波大学には、学生が人間学群・教育学類という垣根を越え、他の学群・学類の授業を自由に履修できるという特徴があります。これが、「その他」の科目です。

大学の授業は、高校時代とは異なり、学生の主体性が基本となります。自ら学ぶことを通してのみ、学問の奥深さと面白さを学ぶことができるのです。

	1年次	2年次	3年次	4年次	
基礎科目	総合科目				新入生に対し実施するフレッシュマン・セミナーおよび学問への誘い
					広く社会や世界の視座から多様な考え方、生き方に触れる学士基盤科目
	体育	体育			健康管理及び体力増進を目的とする科目
	第1外国語 英語				外国語の実用的能力の養成を目的とする科目
	第2外国語 初修外国語				外国語の入門的・基礎的な学習を目的とする科目
人間学群	情報				情報科学に関する基礎的な能力の養成を目的とする科目
	人間学				「人間とは」を多面的に学ぶ科目
	教育基礎論				教育学の入門科目
	学校の経営・制度・社会				
	心理学概論				心理学の入門科目
専門基礎科目	障害科学I又はII				障害科学の入門科目
	キャリアデザイン入門				卒業後の進路(就職)を考えることを目的とする科目
	教育インターンシップ基礎論				教育現場における実践的な活動を行うための準備科目
	教育インターンシップ実践演習				教育現場における実践的な活動を行う科目
	教育学研究法A				教育学・教科教育学の基礎的領域における文献研究を行う科目
教育学類	教育学研究法B				教育事象を調査によって実証的に研究するための知識・技能を習得する科目
	教育学実践演習				卒業研究につながる科目
	卒業研究				4年間の学習の成果を卒業論文にまとめる科目
	●教育学コース				
	〈人間形成系列〉	概論・演習・実践演習			4つの系列の授業を全般的に履修するとともに、特に関心のある系列の授業を集中的に履修する
〈教育計画・設計系列〉	概論・演習・実践演習				
〈地域・国際教育系列〉	概論・演習・実践演習				
〈学校教育開発系列〉	概論・演習・実践演習				
〈学校教育開発系列〉	●初等教育学コース 概論・演習・実践演習				
教職科目		教育実習を含む	教育実習を含む		教員資格を得る上で履修を定められた科目
社会教育 主事科目					社会教育主事資格を得る上で履修を定められた科目
その他					教育学類の履修に関連して周辺領域から履修できる科目および幅広い教養を身に付けるために履修できる他学群・他学類の科目



卒業論文優秀者と筑波大学茗溪会賞受賞者

4年次には各自が様々なテーマで卒業研究に取り組みます。仕上がった論文は厳正に審査され、優秀な論文を書いた学生は学群長表彰の対象となります。また、クラス代表などを通して学生や大学のために顕著な活動を行った学生は、筑波大学茗溪会表彰の対象となります。



教育学類新生オリエンテーション

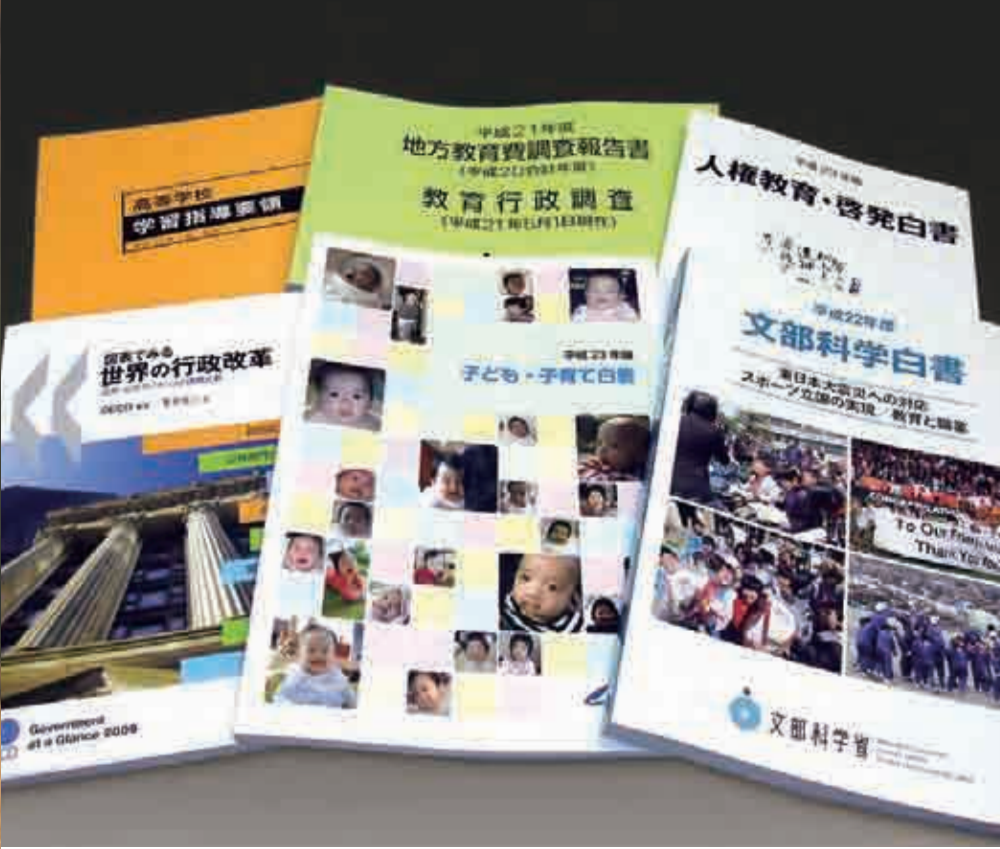
人間形成系列において、学生は教育に関する基礎を学ぶことができます。その中には、教育哲学・日本教育史・アジア教育史・外国教育史・道徳教育学・キャリア教育学という分野があります。

現在、この系列の授業のなかには、主に、世界や日本の歴史をさかのぼって、学校というものがどのように成立・展開してきたのかを考えたり、今日の教育のあり方を導いた偉大な人物の足跡・思想をとらえなおしたりする授業が開講されています。より具体的に言うと、前近代を中心とする日本教育史の全体像、近代を中心とする日本教育史の歴史像、東アジア教育史の比較研究、クラス・カリキュラム、一斉教授の思想と歴史、ルソーの教育思想における人格形成、諸外国の道徳教育の諸相、古代ギリシャの哲学やソクラテスの教育思想、などを内容として取りあげています。このような内容を学ぶことで、教育学の基礎的知識が習得されるのです。

この系列のなかで卒業研究をまとめることになれば、教育の本質や原理を考える基礎的教養が身につくために、学界や教育界などの多様な分野への進路選択が期待されます。



ベスタロッツと子どもたち



教育政策に関する報告書類

系列紹介Ⅰ

人間形成系列

在校生からのメッセージ

熊谷 洋輝

人が生まれてから必ず通るであろう教育という過程。「先生になるつもりはないけど、人の個性がどのように育つのか知りたい」そんな些細な疑問がきっかけとなり、教育学類に入学しました。入学後も入学前に抱いていた学類のイメージは大きく変わりました。教育学類では教育を幅広く、深く、学問として追求することが出来ます。教科教育から生涯学習、さらには高等教育や国際的な一面まで。そこが教員養成に止まらない教育学類の魅力ですね。

私は教育制度や教育実践について学修する中で、それらを支える哲学や思想の存在に気付いたことが、人間形成系列への入り口になりました。例えば「なぜ教育は皆に平等に保障されるべきなのか」このような漠然とした問いにも、根本にはそれを支える「平等」やそれに相対する「自由」の政治的・社会的理念が存在しています。そうした考えを教育に当てはめて追求することで、今までとは異なる新しい「教育」の視点が見えてくることでしょう。ここがまさに人間形成系列の魅力です。皆さんが当然のように受けてきた教育も、実はそれを根本から支える先人たちの膨大な教育哲学や教育思想の歴史によって成り立っているのです。人間形成系列では、教育哲学、教育思想、教育史、道徳教育学、キャリア教育学の分野を扱い、教育学の基盤となる教育や人間の本質的な部分を探求することで、皆さんの教育への視野が大きく広がります。

教育においてある事象がなぜ成立し、なぜ今も大切にされているか、いらないのか。それを知る根本を知ること、教育をより広く深く考えることが出来ます。皆さんが描く教育像を飛び越えて、新しい世界へ一歩足を踏み入れてみませんか。私たちの進撃はこれからだ。



卒業研究の例

- フレーベルの教育思想に関する一考察
- 子どもの意見を尊重する教育関係の在り方
- 「特別の教科 道徳」成立に至る過程の検討
- 人格教育に関する研究
- トランスジェンダー教職員の職場環境をめぐる現状と課題
- 女子少年院における「職業補導」・「職業指導」に関する研究
- 「東北」と「方言」をめぐる教育史的展開 —1900年代から1950年代における教師の実践と動向に着目して—
- 遠山茂樹の通史学習に関する研究 —小・中学校を中心に—
- 現代フランスにおける〈他者の歓待〉思想の教育学的可能性 —遍在する排除の暴力に抗して—
- 脱人間中心主義の教育構想と自然 —アンドリュー・ドブソンのエコロジズム論に着目して—
- 貧困にある子どもたちの社会的移行を支えるためのキャリア教育の基礎理論に関する研究—ケイバリティ・アプローチの視点から—

開設授業科目の例（令和3年度の場合）

〈講義科目〉

教育哲学：個性の育成と社会性の育成をはじめとした、教育を取り巻く価値の二項対立に注目しながら、現代の教育に関わるさまざまな問題と、教育のあり方とを検討していく。その際、近代教育理論・教育思想に課題解決の糸口を求めていき、問題の本質を深く探究していく。

教育思想論：本科目は、「教育とは何か」という根源的な問いをはじめ、現代に生きる我々が日ごと、無自覚・無意識的に自明の理として前提としてしまっている教育の概念や考え方などについて、それらを改めて相対化し、問い直してみようとするものである。

キャリア教育論：キャリア教育に先行して実践されてきた職業指導・進路指導の歴史的展開と理論的背景、キャリア教育提唱後の推進施策及び学校における諸実践の特質と課題に関する講義を通して、キャリア教育についての理解を深め、今後の在り方を探る。

〈演習・実践演習科目〉

教育哲学演習：個性の伸張（個人の自由の拡大）と社会性の育成（社会の維持・発展を担う市民の育成）という、対立的要素を含んだ二つの教育目的をいかに両立させるか、という近代教育が抱えてきた課題について、現代の教育に関わるさまざまな問題を取り上げながら、考察していく。

キャリア教育論演習：日本を含め、世界の多くの国におけるキャリア教育（及び類似的教育実践）を支える基礎理論は、アメリカ合衆国の研究者らによって構築されたものである。本演習の前半ではアメリカの学校教育について日本語で書かれた文献を、後半ではアメリカの教育関係者向けに書かれた英語の文献を読みながら、アメリカにおけるキャリア教育実践の特質と課題を探る。

アジア教育史演習：韓国において朝鮮教育史に関する2泊3日の巡検を行なう。近世の科挙制度に関する建物や、近代教育史の史資料や当時の状況などを自分の目で確かめ、考えることが目的である。

卒業研究の例

- 中学校における教員の意欲を高める校内研修に関する研究 —教員同士のコミュニケーションに着目して—
- 不登校支援における教育支援センター（適応指導教室）の役割と課題に関する一考察 —指導員の認識の検討を中心に—
- 児童生徒のよりよい人間関係を形成する学級担任のあり方 —理論と教員インタビューの分析から—
- 人口減少自治体における学校・地域関係の再構築に関する研究 —「信州型コミュニティスクール」の導入事例に着目して—
- 小規模校のコミュニティ・スクール活動の意義と課題 —地域住民の参画の様子に着目して—
- 公立学校における働き方改革に関する研究 —学校現場の実施状況と教師の職務意識に着目して—
- 校則の教育的必要性に関する一考察 —判例の検討を中心に—
- 公立小中学校における女性管理職の登用について
- 小学校における学級経営の在り方に関する研究 —児童理解と発達段階に着目して—
- 高等学校の商業教育における技能検定の制度的展開

開設授業科目の例（令和3年度の場合）

〈講義科目〉

教育制度論：今日、さまざまな教育改革が行われているが、ではどのような学校教育が望ましいのか。本講義では、「学校教育制度をつくってみる」という観点から、学校教育を構成する主要な制度的要素を取り上げ、現行制度の根拠とその改革の可能性を検討する。

学校経営論：近代学校というシステムにおいて「経営」が必要とされるようになったのはなぜか？「学校経営」という概念はこれまでどのように理解されてきたのか、また、捉え直されてきたのか？学校教育が多様で複雑な課題に直面し様々な教育改革が進められる現代において、「学校経営」のあり方をどのように考えればよいのか？—これらの問いを中心に据えて、講義と討議を繰り返しながら進めていく。

比較学校経営論：日本、イギリス、オーストラリア等の学校経営の理論・政策・実践について検討し、今後の学校経営改革の在り方を考える。前半は知識・視点・考え方の習得（理論と実践）を重視する。後半は、調査力・思考力・表現力の習得（政策・経営実践、事例など）を重視する。

〈演習・実践演習科目〉

教育制度論演習：教育政策において、「資質・能力」（コンピテンシー）がどのように論じられているのか、国内外の施策を取り上げ、その内容を検討する。

学校経営論演習：学校をよりよくしていくということはどういうことか？よりよい学校を創造するうえで「組織」「経営」という概念で括される諸条件はどのような機能や意味をもつのか？そしてどのようにあるべきであり、実際にはどのようにありうのか？—これらの問いを中心に据えて、文献読解、受講者自身の調査と発表、討議、そして学校訪問調査などを繰り返し交えながら進めていく。

比較学校経営論演習：諸外国と日本の教育について学ぶ。各国の教育改革、学校経営改革などを検討し、新しい時代の学校と教師の在り方などについて考察する。現在と未来の社会情勢をふまえて、初等中等教育の最新の政策と課題について論究する。

在校生からのメッセージ

荒井 実加子

皆さんは、今受けている教育や今まで受けてきた教育が、どのような意図をもってどのように運営され成立しているのか分かりますか。私は、教育計画・設計系列で学ぶなかで、学校という環境に身を置き、教育を受けてきたにも関わらず、学校や教育の仕組みについて知らないことばかりだと感じる事がたくさんありました。

この系列で学ぶ面白さは、変容し続ける現代社会において、今そして未来の教育に何が求められるのかを考えることにあります。教育計画・設計系列では、現行の教育制度について、どのような改革が提言できるのかを考える授業があります。私は

その中で、ある制度や施策を運用するためには、賛成・反対の対立、家庭・学校の反応、その他様々な立場の人の意見を多角的に捉えることが重要だと学びました。それは、制度設計や学校運営の難しさであり、同時に、今まで見えていなかった視点を学べる面白さでもあります。

学校教育は、学校教育法、学習指導要領などの様々な法律、教育課程などの基準によって運営されています。しかし、実際に定められた法律や基準が、それらの目的を実現できるように作用しているのでしょうか。この系列では、制度や基準がどのように作用しているのか、どのような課題を解決していかなければなら

系列紹介Ⅱ

教育設計系列

授業や学級活動、学校行事など、学校における学習の場は、さまざまな組織や制度に支えられて成り立っています。たとえば6・3・3制や学校の中での学年や学級（クラス）という仕組みがあります。また、学校の教育活動が効果的に行われるために学校では教職員の協力体制や父母・地域住民の参加の仕組みが作られ、自治体の教育委員会は教職員人事や学校への指導を行ったり、予算を配分したりしています。国はこうした活動のための法制度を整備したり、補助金などを通じて支援したりしています。

教育計画・設計系列では、学校教育をデザインし、支援する活動について研究します。教育の制度、行財政・法制、学校の組織・経営について、理論や歴史、日本や諸外国の制度や実践から学びます。そして、これからの学校教育のデザインと支援を開発・提言・実践できる人材を育成します。

ないのかを探究します。そして、教育を設計するという面から、日本の未来を担う子どもたちをはじめ、多くの人に影響を与える教育の在り方について考えます。学びを通じて、教育についての自分の視野が広がっていく面白さを感じてほしいです。教育制度や教育行政など、教育システムに興味のある人は、ぜひ教育計画・設計系列での学びを楽しんでください。



地域・国際教育系列

教育とは、学校、地域社会、家庭など、さまざまな「場」でおこなわれている多様な人間形成の営みであるといえます。本系列では、こうした教育的営みを社会・文化とのかかわりでローカルレベルからグローバルレベルまでも視野に入れて実践的・理論的に探究する授業科目で構成されており、多様なレベルにおける教育制度・政策、教育・学習活動について幅広く理解する視点を持つという点に特徴があります。

本系列の授業科目を通じて、公民館、図書館、博物館、カルチャーセンターやスポーツ施設等の生涯学習の場で学習支援を行う地域社会教育の専門家、国内外を問わず教育行政、学校現場、市民団体等の場でグローバルな視野で教育支援に従事する専門家の道を目指してほしいと考えます。



フィールドワーク報告会の様子

卒業研究の例

- ミャンマーの国づくりにGlobal Citizenship Education が果たす役割 ―ノンフォーマル教育の実践に着目して―
- 東京2020に向けたオリンピック・パラリンピック教育推進における課題 ―政策理念と実施状況に焦点を当てて―
- 女児向けアニメの少女表象にみる「共生」―『プリパラ』を消費する「大きなお友達」に着目して―
- NPOによる多様な他者との交流を通した若者の居場所づくり ―多世代・多文化の交流拠点「CASACO」を事例として―
- 地域に根差した公民館報の持つ役割と可能性 ―笠懸公民タイムスを事例に―
- 日本人学校における教員の葛藤と実践 ―多様化する小規模校の教員へのインタビュー調査から―
- 学童保育における障害児の受け入れの意義と課題 ―指導員の葛藤に着目して―
- 運動部活動をめぐる課題とその改革に関する研究 ―部活動指導員制度とその実態に着目して―
- 社会的排除に向き合う公民館実践に関する一考察 ―那覇市立若狭公民館に着目して―
- 社会教育委員制度の現状と課題に関する研究 ―千葉県松戸市を事例として―

開設授業科目の例 (令和3年度の場合)

〈講義科目〉

国際教育論：この授業では、日本における外国人の子どもの教育問題を取り上げる。外国人子どもたちの教育保障(教育への権利、親の就労義務)に焦点を当てて、関連文献、文部科学省政策文書・統計を解読し、テーマに関連するドキュメンタリーを鑑賞・分析し、討論を行う。

環境教育論：環境教育の歴史、目標、内容、方法についての基礎的理解を図ることを目的とする。環境教育の発展過程・現状・課題を探りながら、環境教育の目的や方法と環境教育の授業の構成と展開の特質等を学び、今後の環境教育のあり方を考察する。可能なかぎり環境教育の授業の観察(動画視聴等)、水質調査の実験・実習、野外での自然体験活動・観察も含める。

教育改革の国際比較：諸外国の教育改革に着目し、各国が取り組む教育をめぐる現代的な諸課題について、日本も含めた国際比較の観点から考察する。授業では、前提となる各国の教育理念・制度・政策についての理解を深めつつ、シティズンシップ教育、移民の教育、ユネスコが推進する国際的な教育プログラム、新自由主義的な教育改革、国際学力調査など、受講生の関心を加味しつつテーマを決定し、国際的な教育改革の動向と各国の対応について検討する。外国語(主として英語)の原典を参照しながら授業を進める。

〈演習・実践演習科目〉

比較教育文化論：モスクワ等海外への国際実習を通じて、教育や文化の現状を学習するとともに、日本や他国との比較を行い、それぞれの特徴を考察する。

比較高等教育論演習：大学の授業で用いられる教育技法の一つである「ディベート」について、多様な技法を学ぶとともに、理論的思考力の育成を目的とする模擬授業を計画実践する。

教育社会学演習：文献を講読し、討議・検討することで、社会的に解明すべき教育問題に目を向ける。次いで、問題のテーマ化を図りながら視点を定めることにより解明すべき課題を導出する。課題解明のための方法を学びながら、調査研究を企画・計画する。もって、教育問題に社会的にアプローチする基礎を身につける。

在校生からのメッセージ

島袋 恵

高校生が思い浮かべる大学生活とはどのようなものでしょうか。これまでと違って、自分の学びたいものを学んだり、サークルに所属したり、バイトをしたり…など夢いっぱいだと思います。教育学類では、「教育」というものをそれぞれの興味関心のもと、深く学び、ゼミなどで研究テーマを設定して議論するなど、学業面での充実はもちろんのこと、クラスみんなでスポーツ大会に出たり、イベントで集まったり、学業以外のことも全力で楽しむことのできるクラスメイトと4年間切磋琢磨しながら、学生生活を送ることが出来ます。

地域・国際系列では、地域社会での学びである生涯学習・社会教育の分野と、海外の教育を学ぶ比較・国際教育の分野を学ぶことが出来ます。他の系列と比べると、フィールドワークなどを通じて実践的

に学べることがこの系列の特徴です。例えば、比較教育文化論という授業では海外の教育を理論的に学ぶと同時に、実習で現地へ足を運び、さらに理解を深めていくことが出来ます。私自身、ロシアでの海外実習や茨城県大子町でのフィールドワークに積極的に参加し、そこで行われている様々な教育実践に触れることで「教育」をあらゆる視点から捉えることが出来ました。

私は、教育格差に興味を持ち入学しましたが、「教育」を改めて自分の中で見つめなおし、地域社会での人との繋がりや、地方の若者の居場所感をテーマに研究に励んでいます。皆さんも、教育学類での学びを通じて、一緒に「教育」の新たな一面を探しに行きませんか。



教育実習生による授業風景(筑波大学附属小学校)

系列紹介Ⅳ

学校教育開発系列

卒業研究の例

- 理解しやすい英語の発話とは ―発話の言語的特徴と非英語母語話者による評価の関係から―
- 児童の学校生活における安心感の検討 ―教師や友人との経験・愛着に焦点をあてて―
- 高校生物教育における進化を軸とした生物概念の体系化に関する研究―高校生の生物概念間の関連付けに着目して―
- 探究学習における生徒の課題発見過程 ―高校生の認知的・感情的な価値の獲得に着目して―
- アクティブ・ラーニングを効果的に導入するための組織づくり ―中等教育学校を事例に―
- 小学校国語科における言語感覚の育成に関する研究 ―教科書教材の「適切さ」からの分析―
- 熟識民主主義を担う市民育成のための社会科授業 ―D.Hessの政治的論争問題学習論に着目して―
- 高校生活における困難からの回復プロセスとレジリエンスの関連 ―大学生への回想調査から―
- 中学校数学科における数学的モデル化の教材開発プロセスに関する研究 ―題材の現実性に焦点を当てて―
- 方向感覚を養う地理教育 ―オリエンテーリングを使った授業例―

開設授業科目の例 (令和3年度の場合)

〈講義科目〉

学習指導論：授業を構成する要素や、主要な教授法と形態等について研究しながら、教育方法の基礎理論について講義する。具体的には、小学校の実践例を中心に取り上げながら、授業の設計や教材、教育機器、指導技術や学習形態等について考える。

社会認識教育論：学校教育で展開されている社会認識を高めるための教育について、その理論と方法について概説する。具体的には、サービス・ラーニング、多文化教育、まちづくり学習、主権者教育、人権教育などを取り上げる予定である。

初等外国語：英語の音声や文字、言語習得理論など小学校外国語教育に必要な基礎的知識について講義する。また、それらの知識を授業実践において活用できるようになったり、授業実践に必要な英語力を身につけるためにグループワークや発表を行う。

〈演習・実践演習科目〉

数学教育論演習：数学教科書、国内外の学力調査問題の分析及び討議を通して、数学教育のカリキュラム、授業、学力評価、教材開発等に関する理解を深める。

特別活動論演習：特別活動では、児童生徒が集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮して生活上の課題を解決するが、理論やエビデンスを活用しないまま教師の経験則で展開されているという課題がある。本授業では論文を精読することで、人文・社会科学の観点から特別活動を考察し、効果あるカリキュラムや実践について探求する。

海外授業研究演習：本授業では、日本の授業研究として知られる授業研究の方法を、小学校低学年の算数教材を通して英語で学ぶ。また、様々な教科で求められる授業づくり方法を英語で習得する。

学校教育開発系列のポリシーは、「進化する学校教育のエキスパートを育成する」ことにあります。学校は日々、児童・生徒が学習する場です。児童・生徒の成長とともに教師の関わり方は変わり、社会背景とも絡みながら、学校は進化し続けます。そのような学校教育の基礎・基本を学び、さらにそれを基盤として進化する学校教育に適応し、よりよい方向に変えていく力をもつ人間を育成することが学校教育開発系列の目指すところです。

机の上で学校教育に関する理論を学ぶことだけが重要なではありません。実際に学校に飛び込み、自らの目で学校教育の様々な課題を見出す。その中から自分の研究テーマを設定し、授業で学んだ理論を基盤としながら、自分の観点でそのテーマを追究していく。そうすることが、学校教育の理解をさらに深め、よりよい学校教育を構築していくことにつながっていくとわれわれは考えています。特に初等教育学コースでは、附属小学校との連携のもと、現場に根差した実践力、研究力の育成を図ります。

さあ、あなたも学校教育開発系列で、世界を担う学校教育を極めてみましょう!

在校生からのメッセージ

常井 直樹

「教育」という言葉を聞いたとき、多くの方が学校を連想するのではないのでしょうか。学校では授業などの学習に加え、児童生徒の人格の完成を目指し、様々な教育活動が行われています。それらについての学びを深めるのが、学校教育開発系列です。

学校で毎日当たり前に行われている授業ですが、その授業について深く考えるという機会はこれまで多くはなかったかと思います。私自身は、高校生の頃は授業がどうやって成り立っているのかを考えたことがないどころか、熱心に授業を受けていたとは言えませんでした。大学生になり、本系列で学習する様々な学習指導法だけを見ても多様な考え方があることが分かり、当時はまったく意識せず、気にもしていなかったような教員による働きかけがあったのだと気づきました。ほんの少しいですが、高校生に戻って授業をもう一度受けてみたいと思ったこともあります。

学校教育における教育活動にはこれといった正解はないと思います。だからこそ、自分の関心に基づいたテーマについて考えを深めていくことは、皆さんにとって非常に意義のあることだと思います。私は、中高一貫校における教育活動に関心があり、そのことについて研究を行っています。中高一貫校では、高校の教育課程を前倒して中学校で指導することができることをご存じでしょうか。これはほんの一例で、本系列の学習を通して新しい知識を得ることはたくさんあります。教育を受ける立場からは見えない学校教育の奥深さを感じてほしいと思います。



後輩達へ 卒業生の言葉

井口 謙【RKB毎日放送】

●平成29年度卒業



平成29年度に教育学類を卒業し、現在は福岡県の放送局でアナウンサーとして働いています。「教育学」と「マスコミ」、一見すると全く違う分野のように感じられるかもしれませんが、しかし、大学時代に学んだことは今の私の仕事を大きく支えてくれています。

アナウンサーとして「伝える力」はもちろん、「聞く力」も求められるのですが、それは教育現場でも同じことだと思います。

教育臨床学を専攻する中で様々な人にインタビューをしたこと、教育実習での授業の経験、また所属していた陸上競技部での活動、大学時代の時間のすべてが今の仕事に繋がっていると感じています。

筑波の教育学類は非常に選択肢が豊富だと感じます。教育学類所属というと、「先生になるの?」とよく言われましたし、自分自身も教師を目指して進学する際、教育学は閉鎖的だというイメージを持っていました。しかし実際は、分野はとても多く扱う範囲も様々で、それぞれの分野のエキスパートである先生方のご指導を受けることができますし、卒業生の進路も千差万別です。そして何より、教育学類での学びはその後の進路にかかわらず大きな自らの財産になります。

楽しい大学生活を送りながら、様々なことに挑戦してみてください!

中村 咲耶【ベネッセ】

●令和元年度卒業



令和元年度に教育学類を卒業し、現在はベネッセコーポレーションに勤務しています。教育学類からベネッセへという一見妥当に思える進路選択かもしれませんが、私は入学してから卒業までとても進路に悩みました。高校時代は教師を目指していましたが、物事を多角的に学ぶことができ、幅広い選択肢のある大学へ進みたいという理由から筑波の教育学類を志望しました。

実際に教育学類では、教職課程はもちろんのこと、様々な分野の先生方と共に、これまで思いも寄らなかった視点で教育を学ぶことができました。また、学類の垣根を越えて受けることのできる授業や課外活動等も含め、沢山の素敵な出会いや刺激があり、その過程で多くの道に触れたことが現在の進路にも繋がっているのではないかと感じています。今は「急速に変化する時代」と言われますが、私が入社したタイミングはコロナ禍でまさに新しいことの連続でした。教育という正解のないテーマに対して、異なる視点から同士と考えてきた経験こそ、今の業務に、そしてどの仕事にも生きる力だったと思います。教育に関心がある方、教師を目指している方、そうではない皆様にとっても、教育学類では沢山の学びがあります。多くのことに触れ、素敵な大学生活を過ごしてください!

長瀬 利勝【北海道公立高校】

●平成30年度卒業



私は現在、稚内で教員をしています。5月下旬に桜がやっと咲き、6月でも最高気温が 20 度前後の海と風の町で、授業と部活をメインに、高校生たちと楽しく毎日を過ごしています。

わたしははっきりとしたきっかけもなく、いつの間にか将来の夢が教員になってました。ただ、筑波大学という目標ができた理由は明確で、中学校の時の担任の先生に「教育を学ぶなら筑波だ」と言われたからです。

しかしその時は、筑波大学の教育学が深い歴史を持つことはもちろん、つくばがどこなのかもわかりませんでした。

教員となった今やっと、筑波大学で教育学を学ぶ強みを 1 つ挙げられそうです。それは、教育に対する視点を幅広く身につけられることです。筑波大学には、教育学のあらゆる分野のエキスパートがいらっしゃいます。したがって、同じ教育に関する問題に対して、異なる視点やアプローチが存在します。学類の 4 年間ではこの視点の多彩さに驚き、「こういう見方があるのか」という発見をたくさんしました。今教員として教育の現実的な問題にぶつかったとき、経験値の少ない新米を助けてくれるのは、視点やアプローチの多彩さだと実感しています。

八木橋 彩【文部科学省】

●令和元年度卒業



私は文部科学省に入省し、現在は教科書課で教科書検定の事務をしています。教科書検定とは、出版社の作成した図書が教科書として子ども達の手に渡っていくために、誤りが書かれていないか等を専門家がチェックしていくものです。昨年度は社会科、今年は道徳科と理科を担当しています。

私は高校生のときに「社会をつくるのは人、人をつくるのは教育だな」と漠然とした興味を持ち、教育学類を選びました。教育行政を学びたくて入学したのですが、教育学の様々な授業を受け、行政だけではなく、生涯学習やジェンダー、キャリア教育、特別支援など多くの分野に興味が湧き、教育への思い入れが深まりました。

そして、日本の教育の根幹に携わりたいという想いから、文部科学省への就職を決めました。教育学の様々な分野への関心が、どんな仕事でも頑張れる今の気持ちに繋がっている気がします。社会人になった今も学ぶことがたくさんあり、日々勉強です。筑波大学に興味がある皆さまには、ぜひこの広大なキャンパスで、のびのび過ごして、めいっばい勉強して、たくさん遊んでほしいです。空気が澄んでいるし、図書館は大きいし、一人暮らしは成長した気持ちになれます!

学びのある充実した 4 年間を過ごせますように!

教員紹介

氏名	研究テーマ
教育哲学	
平井 悠介	現代英米圏の教育哲学、教育における平等論とシティズンシップ教育論
日本教育史	
平田 諭治	近代日本教育国際関係史
道徳教育	
田中 マリア	道徳教育、ルソーの教育思想に関する研究
キャリア教育学	
藤田 晃之	キャリア教育論(日・米・デンマーク比較研究)、教師教育制度論
特別活動学	
京免 徹雄	教科外活動の国際比較、開発的生徒指導論、フランスの進路指導
教育制度学	
藤井 穂高	教育改革、フランスの教育制度、幼児教育
比較・国際教育学	
川口 純	途上国のインクルーシブ教育、教育開発論、教員政策
菊地 かおり	シティズンシップ教育、移民・外国人の教育、国際理解教育
タスタンベコワ クアニシ	言語教育政策、旧ソ連(CIS)諸国・中央アジア諸国の教育政策、ユネスコの教育政策
学校経営学	
佐藤 博志	学校経営論、オーストラリアの教育改革
浜田 博文	学校改善論、アメリカの学校経営政策論、教師教育論
教育政策学	
古田 雄一	教育政策論、シティズンシップ教育論、生徒参加論、現代アメリカ教育改革
教師教育学	
朝倉 雅史	教員の養成と研修、身体教育、部活動改革
生涯学習・社会教育学	
上田 孝典	日中の社会教育・生涯学習実践研究、近代中国の社会教育史研究
学習指導学	
樋口 直宏	教育方法学、授業研究、批判的思考論、小中一貫教育
教育社会学	
徳永 智子	日米における移民の教育、異文化間教育、参加型アクションリサーチ
高等教育論	
田中 正弘	イギリスの大学改革、大学教育の質の保証、専門職養成の在り方
人文科教育学	
長田 友紀	国語教育、コミュニケーション教育、音声言語教育の研究
勝田 光	国語教育、読むことの学習指導、子どもの文学
名畑目 真吾	英語教育、英文読解プロセス、小学校英語
社会科教育学	
井田 仁康	社会科・地理教育の理論的・実践的研究
唐木 清志	社会科教育学、アメリカ公民教育論
國分 麻里	社会科・歴史教育の理論的・実践的研究、韓国の社会科教育研究
金 玟 辰	地理的探究に基づく学習、地理カリキュラムの国際比較
理科教育学	
遠藤 優介	理科教育目的論、ドイツ科学教育論
山本 容子	理科教育、生物教育、環境教育論
数学教育学	
磯田 正美	算数・数学の学習指導法の研究、数学教育の国際共同研究
小松 孝太郎	学校数学における証明、数学教育における課題設計、ICT 活用、科学教育論
清水 美憲	数学的思考の認知的研究、数学教育の国際比較
蒔苗 直道	数学教育史
特任助教	
早瀬 博典	社会科教育学、アメリカ社会科教育論、インクルージョンと社会正義に関する研究

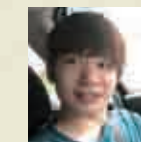
卒業後の進路



大学院進学者からのメッセージ

香川 圭

教育学学位プログラム



私は筑波大学の人間総合科学研究群（教育学）に進学し、現在は大学院生として教育哲学領域の研究を進めています。教育哲学とは、字義どおり、社会のなかで起きている教育現象あるいは教育的現実についての哲学的考察を主立った特徴とする学問です。このように堅苦しく書くと「なにか難しいことをしているな」と感じると思います。しかし、たとえば

「学校ってなんで行かなきゃいけないのだろう」「ニュースで見たけど、あの教育って本当に良いことなの？」のような、誰もが一度は抱えたことのある、そうした疑問のなかに教育哲学的な営みが潜んでいるのだと思います。そして、そのような視点を教えてくれたのが教育学類での学びでした。

赤裸々に言ってしまうと、私の教育学類への志望動機には強い熱意はなく、なんとなく入学しました。「教育なんてあって当然のものだ」「いまさら何を研究しろと」くらいの思考さえ心の片隅に秘めているほどでした。しかし、教育学の多彩な分野に精通している先生方に出会い、むしろ自明視されてきた教育システムだからこそ、それを問いなおすことに研究の可能性が広がっていることを学びました。教育の“当たり前”を疑う。これは勇気がいることです。しかし同時にワクワクもありませんか？

教育学類での学びは常に「再発見」の連続です。皆さんもぜひ楽しいキャンパスライフと一緒に、色々な「再発見」を実感してみてください！

早乙女 達樹

教育学学位プログラム
教育基礎科学サブプログラム



「教育って何なんだろう？」という疑問が教育学類入学のきっかけでした。その漠然とした疑問は、教育学類で過ごした4年間で、各分野に精通した先生方の講義を受け、また同じ興味を持った仲間たちと議論する中で、より深まりました。誰もが一度は教育を受けた経験があり、教育について全く知らない人はいないと思います。その一方、様々な研究領域がそれぞれに研究を進めて、それでもなお明確な正解が見出せないのが教育です。むしろ、教育に関する多くのことを知れば知るほど、より大きな疑問が生まれてきます。そして、その大きな疑問を受け止めてくれる環境が、筑波大学の教育学類にはあります。身近にあるけれどもとても難しい教育という営みについて、一緒に考えてみませんか？きっと、これまでの学びとは一味違った刺激的な学びが待っています！

内窪 夏希

教育学学位プログラム
次世代学校教育創成サブプログラム



私は昔から算数や数学が好きで、この面白さを沢山の子ども達に伝えたいという思いから教員を目指すようになりました。しかし教育学類で日々「数学とは無縁だった」という友人と教育について語り合う中で、私が感じていた数学の魅力というものがいかに主観的であったかということに気付かされました。そしてそのような時に数学教育界の第一線で活躍されている先生と出会ったことが非常に大きな収穫だったと感じています。教育学類には様々な価値観や視点を持ち、一方で「より良い教育」という同じ思いを共有した仲間が集まっています。この恵まれた環境で皆さんが沢山の方と出会い、多様な考えに触れ、充実した時間を過ごせるよう願っています！

卒業生の進路

教育学類は2011年3月に第一期の卒業生を送り出しました。前身である人間学類教育学主専攻と同じく、社会の様々な分野に進んでいます。

下のグラフは、教育学類の過去5年間の卒業生の進路先を示したものです。「就職」は、「企業・団体」「教員」「公務員」の3つに分けて示してあります。

このグラフからわかることは、大まかな傾向として、「就職」が50％程度、「進学」が30％程度、そして、「その他」が20％程度ということです。「その他」に含まれている学生の多くは、就職や進学の準備をする人たちですが、これらの人たちも次年度あるいは数年の内に、就職あるいは進学を決め、希望する進路先へと進んでいます。

最近の傾向としては、「教員」の中でも小学校教員になる人が増えていることです。また大学院の修士課程へ進学した後で、教員となっていく人も多くなっています。

大学院進学

大学院進学者の多くは、同じ筑波大学の教育学学位プログラムに進学しています。教育学学位プログラムの前期課程（令和2年度より改組）は、教育基礎科学サブプログラム・次世代学校教育創成サブプログラム・国際教育サブプログラムの3つに分かれており、修了後は小中高の教員や後期課程に進学して研究者を目指していきます。その他

にも、筑波大学にある他の学位プログラムや他大学の大学院に進学する人もいます。

大学卒業後の主な就職先

〈企業・団体〉
三菱東京UFJ銀行／三井住友銀行
みずほ銀行／常陽銀行／静岡銀行
JR東日本／全日本空輸／東日本高速道路
四国電力／九州電力／山ニガス／日本生命
みずほフィナンシャルグループ／三井物産
住友不動産／しまむらグループ
スバルコンピュータ／第一ゼミナール
湘南ゼミナール／共同通信社／茨城新聞社
読売広告社／ベネッセコーポレーション
トモノカイ／くまざわ書店／明治図書
早川書房 ほか

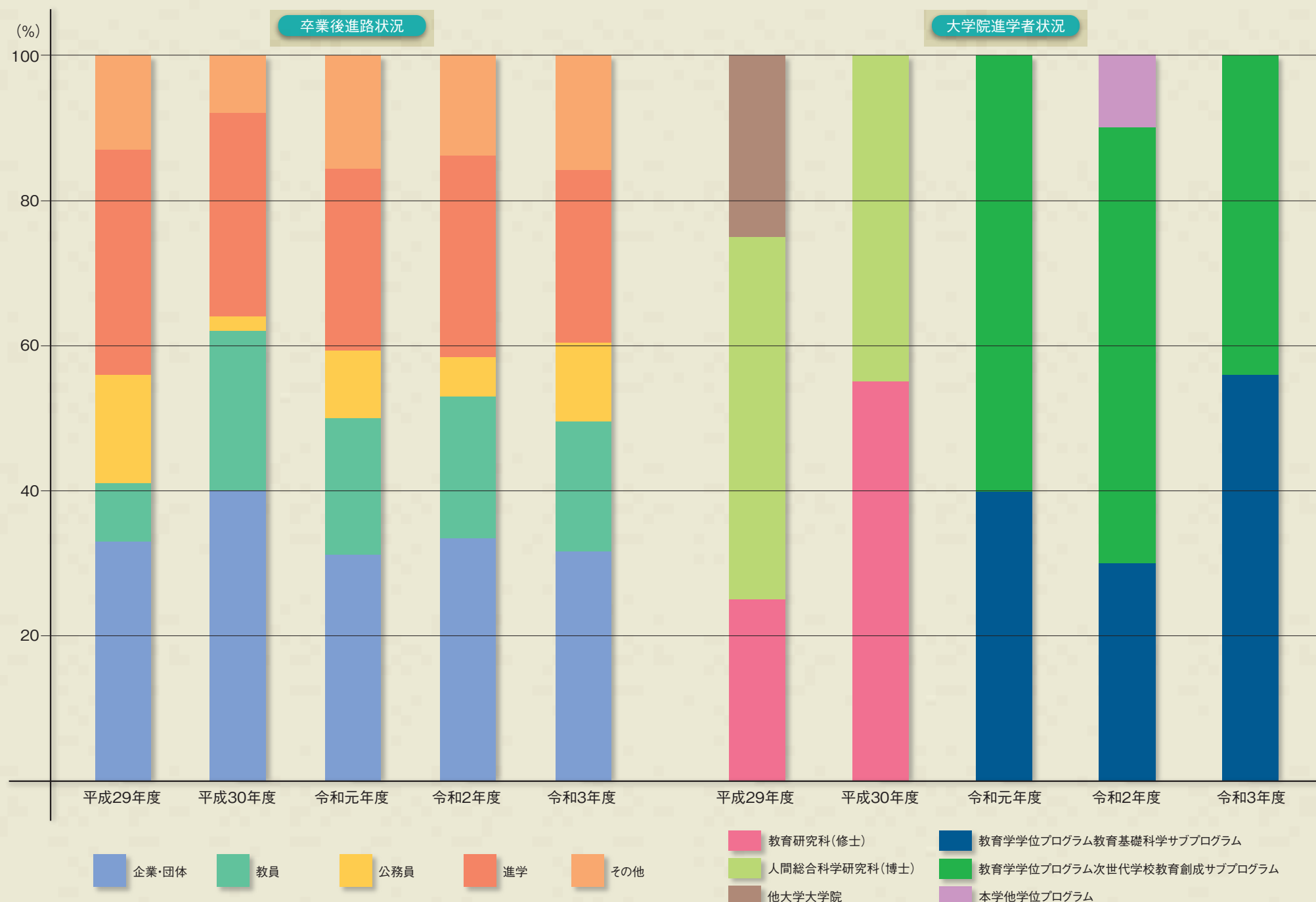
〈教員〉
東京都／埼玉県／茨城県／千葉県
神奈川県／横浜市／山梨県／新潟県
石川県／愛知県／滋賀県／大阪府／兵庫県
広島県／福岡県／長崎県／鹿児島県 ほか

〈公務員〉
北海道庁／福島県庁／茨城県庁／千葉県庁
港区役所／つくば市役所／文部科学省
茨城県警察本部 ほか

大学院修士課程修了後の主な就職先

〈教員〉
青森県／栃木県／茨城県／埼玉県
東京都／千葉県／山梨県／静岡県
兵庫県／香川県 ほか

〈公務員〉
横浜市役所／文部科学省 ほか



教育学類への アクセス





筑波大学 学群入学試験に関する
お問い合わせ先

筑波大学 教育推進部 入試課
〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1
Tel. 029-853-6007
Fax. 029-853-6008

<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/index.html>

University of Tsukuba

University of Tsukuba

筑波大学



<http://www.human.tsukuba.ac.jp/psychel/college/>

人間学群
School of Human Sciences

心理学類
College of Psychology

伝統 *Tradition*

何物にも代え難い歴史の蓄積と知的精神の継承

流動 *Flow*

古い型にとらわれずに新しい形を追い続ける志向性

自由 *Freedom*

自由な発想と独自の人間観に基づく創造的な研究活動

多様 *Variety*

真理の追究のために集った多彩な専門家集団

学際 *Interdisciplinary*

心理学の枠だけでは縛られない視野の広さ

心と行動の
統合的理解をめざして

2023

カリキュラムのコンセプト

1.体系的なカリキュラム

共通科目から個別的な専門科目、そして卒業研究まで、段階的に学ぶことができます。

2.豊富な科目構成

多彩な専門科目が用意され、各自の興味関心に従って、より深く学ぶことができます。

3.多様な心理学的知識の学習

多様な心理学の研究領域を、幅広く偏りなく学びます。

4.新たな知識を「産み出す」ためのメソッド

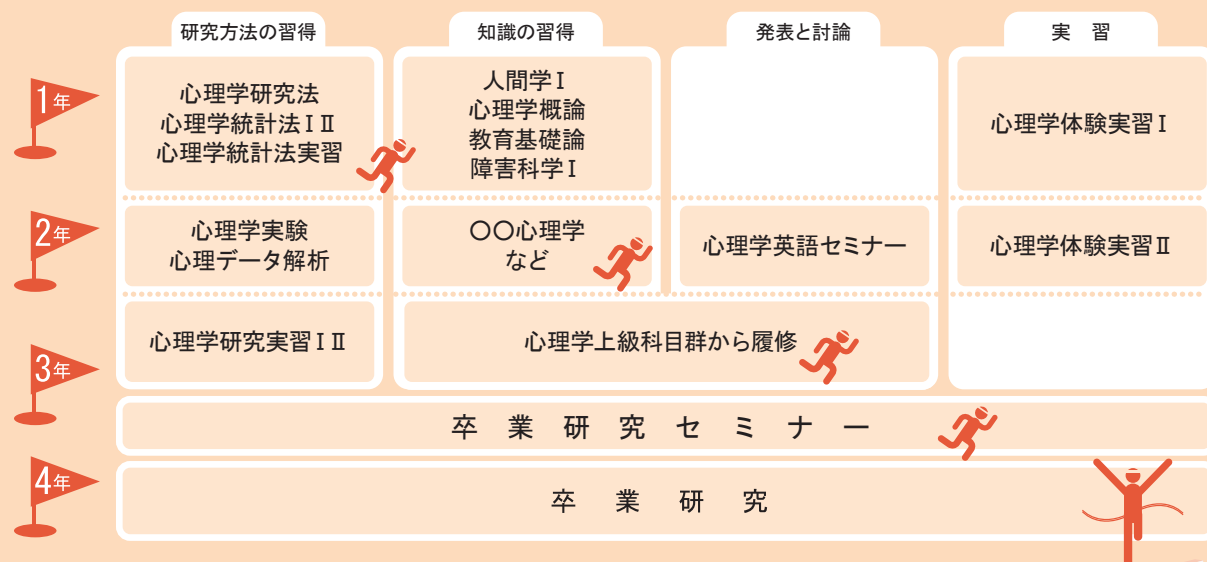
知識を産み出すための方法を講義や実験で学び、ツール(統計、英語)もしっかり身につけます。

5.実践的科目の充実

実践的・実習的な演習科目も用意されており、リアルな学びが得られます。

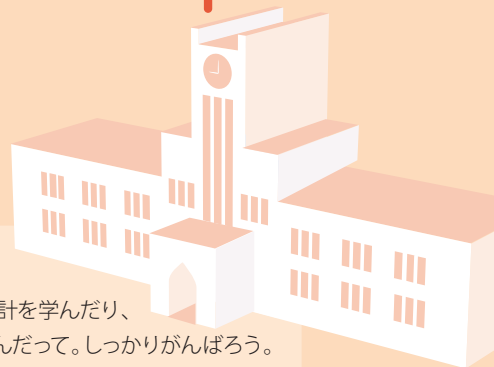


人間学群心理学類生の一般的なカリキュラムのイメージ



こうなる! 心理学類の4年間

概論を学ぶ 1年生	1年次の春から、心理学の授業が始まるよ。 概論では英語のテキストを使って勉強するんだね。大学生って感じ。統計を学んだり、研究法を学んだり、1年次の学習も将来の卒業研究につながっていくんだって。しっかりがんばろう。
実験レポートの 2年生	2年次は心理学の実験が始まった。心理学って実験してデータを取って、分析して、レポートを書くんだね。統計の授業で習ったことをどんどん使っていくよ。講義科目も、概論だけではなく、いろいろな〇〇心理学を学べる。少しずつ、心理学に詳しくなっていくのが自分でもわかる。
研究を深める 3年生	3年次は、グループに分かれて、院生の人や先生と一緒に、本格的な研究をする授業が始まる。研究計画から最後の発表までやり終えると、心理学の研究がどんなものか、わかってきた気がする。卒業研究の準備もそろそろ始めよう。
論文を完成させる 4年生	心理学の知識も学んだ、研究のやり方も身につけた、データ分析の技法も使えるようになった、先行研究も読み込んだ。4年間の集大成は自分だけのオリジナルな研究に挑戦すること。就活・公務員試験・院試、進路はそれぞれ違うけど、友だちと支え合って進路と卒論の両方に全力投球するぞっ!



学び方いろいろ



集中講義

心理学類では心理学のほぼ全分野を学べますが、それらに加えて、他大学の先生をお招きして、短期間集中的に行われる授業も開講されます。

図書館

筑波大学には全国有数の開架式図書館があります。東京文科大学や東京教育大学の古い文献もあり、心理学関係の蔵書はとても充実しています。自由に使えるパソコンが100台以上あり、予約するとセミナー室も借りられます。

研究会

教員や大学院生が主催している心理学関係の研究会がいくつもあり、正規の授業では得られない知識や経験を得ることができます。

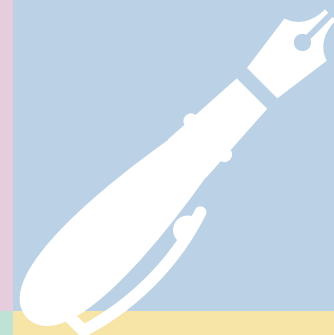
留学

人間学群の主な協定校として、ドイツのルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン、アメリカの南インディアナ大学、ニューヨーク州立大学・オスウェゴ校、大韓民国の大邱大学校、台湾の国立彰化師範大学などがあります。海外の大学で学ぶための方法はいろいろあります。あなたの目的に合ったプログラムを見つけてください。

大学は専門学校と違って卒業時に様々な資格が取れるわけではありません。しかし、所定の単位を履修すれば取得できる免許や資格もあります。

心理学類は、「公認心理師」受験資格のためのカリキュラム体制を整えています。また、心理学類で取得可能な資格として「認定心理士」があります。これは日本心理学会の認定資格で、心理学類の科目をきちんと履修し申請すれば取得できます。なお「臨床心理士」、「学校心理士」、「臨床発達心理士」など心理関係の多くの資格を取るためには、大学院修士課程に進学する必要があります。中学や高校の教育職員免許状(いわゆる教員免許)については、教職課程の必要科目等を履修することにより、高等学校教諭一種免許状(公民)が取得可能です。他の学群・学類の授業を併せて履修することが必要になります。教員免許の他にも、社会教育主事、学芸員、図書館司書などの資格も取得可能です。

資格と免許



就職



心理学類の就職状況は多様なものです。就活して企業に就職する人もいれば、試験を受けて公務員や教員になる人もいます。また、4年間の大学生活のあと、進学や留学をして、そのあとで就職する人たちもいます。また、フリーランスの職を選んだ学生も、就職した後20代のうちに起業した卒業生もいました。

心理学の専門職となると、国家公務員・地方公務員の心理職、家庭裁判所調査官などがあります。

企業にも、公務員にも、教員にも、心理学を学んだ多くの卒業生がいますので、みなさんも自分の好きな道を選んでみてください。

心理学類の進学状況ですが、卒業生の30～40%くらいの人たちが、大学院へ進学しています。なかでも、筑波大学大学院人間総合科学学術院への進学が多いです。博士前期課程では、人間総合科学研究群の心理学学位プログラムとニューロサイエンス学位プログラムが、心理学に関連する教育分野を置いています。筑波大学の他の学問分野の大学院に進学する人もいます。また、自分の研究上の必要性から、他大学の大学院に進学したり、外国の大学院を希望する人もいます。

進学





仲田 真理子

Nakata Mariko

- ①神経科学・行動神経内分泌学
- ②心理学実験・心理学研究実習
- ③マウスをモデルとして、集団の形成をはじめとした情動・社会行動が脳内でどのようにコントロールされているかを研究しています。

山田 一夫

Yamada Kazuo

- ①行動神経科学、行動神経内分泌学
- ②神経・生理心理学
- ③動物を用いて、学習・記憶の脳内メカニズム、特に忘却に関する研究に取り組んでいます。

パスクアロット アキッレ

Pasqualotto, Achille

- ① Experimental Psychology, Behavioural Neuroscience
- ② Research Methods in Psychology
- ③ Multisensory/visual/auditory/haptic cognition in humans; memory modulation via non-invasive brain stimulation in humans; human spatial cognition.

綾部 早穂

Ayabe Saho

- ①感覚知覚・認知心理学、嗅覚
- ②知覚・認知心理学
- ③意識的・無意識的な経験によって情報の認知の仕方がどのように変わるのかについて興味があります。特にニオイの認知メカニズムの研究を行っています。

加藤 克紀

Kato Katsunori

- ①動物心理学
- ②学習・言語心理学
- ③若齢期における社会的環境と社会性の発達との関係、空間構造と情動行動との関係などに興味をもって研究しています。

佐越 祥子

Shoko Sagoshi

- ①神経科学、行動神経内分泌学
- ②心理学実験、心理学研究実習
- ③特に性差のある社会行動が、脳内でどのようなメカニズムによって生み出されているのかに興味を持ち、マウスを使った研究をしています。

高橋 阿貴

Takahashi Aki

- ①行動神経科学、行動遺伝学
- ②神経・生理心理学
- ③社会行動や情動に関わる生物学的基盤の研究をマウスを用いて行っています。

小川 緑

Ogawa Midori

- ①感覚知覚心理学
- ②心理学実験
- ③過去の経験などが後のニオイの知覚に与える影響を主な研究テーマとしています。
また、おいしさなどの「味」の知覚にも興味を持っています。

原田 悦子

Harada Etsuko

- ①認知心理学、認知工学、認知科学
- ②知覚・認知心理学、心理学上級(認知心理学)
- ③実験的基礎研究では「認知的高齢化」ならびに「人の学習、知識の獲得」、フィールド研究では、人にとっての「使いやすさ」研究を行っています。

千島 雄太

Chishima Yuta

- ①教育心理学
- ②感情・人格心理学
- ③時間的展望を大きなテーマとして、人が過去・現在・未来の自己をどのように認識しているかに焦点を当てて研究しています。

藤 桂

Fuji Kei

- ①社会心理学
- ②社会・集団・家族心理学
- ③インターネット上での人々の振舞いや、メディアにまつわる様々な社会問題を研究しています。

川上 直秋

Kawakami Naoaki

- ①社会心理学
- ②社会・集団・家族心理学
- ③主に、実験的な手法を用いて、社会的情報(顔など)の無意識的な認知(印象形成など)について研究しています。

外山 美樹

Toyama Miki

- ①教育心理学
- ②教育・学校心理学、心理学上級(教育心理学)
- ③教室環境(教師、友人など)が子どもに及ぼす影響や学習の動機づけに興味をもって研究しています。

山口 一大

Yamaguchi Kazuhiro

- ①計量心理学、教育測定学、ベイズ統計学
- ②心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理学統計法実習
- ③認知診断モデル・診断分類モデルの諸問題の解決、ベイズ統計学の近似推論法の教育測定学への応用、心理学研究における統計学の役割についての考察

岡田 昌毅

Okada Masaki

- ①キャリア心理学、産業・組織心理学
- ②産業・組織心理学
- ③キャリア発達に関連する理論とビジネス経験を融合し、個と組織のあり方について考えています。

濱口 佳和

Hamaguchi Yoshikazu

- ①発達臨床心理学、発達心理学
- ②心理学上級（発達臨床心理学演習）
- ③児童・青年の社会的情報処理、攻撃性、主張性。親の養育スキルと育児ストレスなどについて研究をすすめています。

佐藤 有耕

Satoh Yuhkoh

- ①青年心理学
- ②青年心理学
- ③思春期・青年期とはどのような時期なのかを自己、感情、友人関係などからとらえたいと思っています。

水野 雅之

Mizuno Masashi

- ①発達臨床心理学、キャリア心理学、心の健康教育
- ②心理的アセスメント
- ③大学生が健康に大学生活を送れるように、自身を大切にするようなセルフケアとメンタルヘルスに関するリテラシーの観点から研究を進めています。

松田 壮一郎

Matsuda Soichiro

- ①行動デザイン、応用行動分析学、発達心理学、自閉スペクトラム症
- ②福祉心理学、心理学上級（行動デザイン）
- ③「行動変容の技術を用いて、人々がより幸せを感じられるように！」を目標にして、人工知能研究者と連携をしながら、最新の行動イメージング技術を用いた研究をしています。

安藤 智子

Ando Satoko

- ①発達臨床心理学
- ②発達心理学、心理学上級（発達臨床心理学）
- ③親と子のメンタルヘルス、アタッチメントなどに関する研究をしています。

生田目 光

Namatame Hikari

- ①臨床心理学
- ②公認心理師の職責
- ③ポジティブ心理学の観点から、ボディイメージや食行動に関する研究を行っています。

安 婷婷

An Tingting

- ①臨床心理学
- ②公認心理師の職責
- ③留学生のメンタルヘルス、援助要請について研究をしています。

菅原 大地

Sugawara Daichi

- ①臨床心理学、感情心理学、ポジティブ心理学
- ②感情・人格心理学
- ③ポジティブ感情の機能に興味があり、最近では精神疾患との関連について研究しています。

藤生 英行

Fujiu Hideyuki

- ①カウンセリング心理学
- ②心理演習
- ③カウンセリング訓練法、外在化・内在化問題行動に共通するリスク要因・保護要因、症状悪化に関与する認知的脆弱性の3本柱の研究を進めています。

杉江 征

Sugie Masashi

- ①臨床心理学
- ②心理学上級（臨床心理学演習）
- ③自律訓練法の基礎的・臨床的研究、大学生と学生相談、心理臨床・教育臨床の実践研究などです。

大塚 泰正

Otsuka Yasumasa

- ①臨床心理学
- ②健康・医療心理学
- ③働く人たちのメンタルヘルスをよくしたり、いきいき職業生活が送れたりするようにするための研究と実践を行っています。

田中 崇恵

Tanaka Takae

- ①臨床心理学、深層心理学
- ②公認心理師の職責
- ③心理療法の中で生じる変容の契機や現実の多層性に関心をもっています。現在は特にオンラインと対面のカウンセリングの違いについて研究しています。

沢宮 容子

Sawamiya Yoko

- ①臨床心理学
- ②臨床心理学概論
- ③認知行動療法に関する基礎研究と臨床応用、およびポジティブ心理学の臨床実践への応用に興味を持っています。

原田 隆之

Harada Takayuki

- ①臨床心理学、犯罪心理学
- ②司法・犯罪心理学
- ③臨床心理学、なかでも非行・犯罪臨床やアディクション臨床が専門です。エビデンス・ベイストをキーワードに、非行少年や犯罪者、アディクション患者に対する有効な治療の開発に関する研究を行っています。

飯田 順子

Iida Junko

- ①学校心理学
- ②教育・学校心理学、心理学上級（学校心理学）
- ③小中高校での学校心理学・スクールカウンセリングの実践や研究を行ってきました。学校心理学における海外との比較文化的研究にも、興味を持っています。

慶野 遥香

Keino Haruka

- ①臨床心理学
- ②公認心理師の職責
- ③心理職の倫理的意思決定や職業倫理教育に関心を持って研究を行っています。大学生の相談にも携わっています。

● 心理学類を志望するみなさんへ

心理学は、人間の心を科学的に追究する学問です。私たちは、日常生活の中で、文字を読み、景色を愛で、思い出にふけったり、作戦を練ったり、友人と喧嘩をしたり、喜んだり、あるいは悩んだりといったさまざまな心的活動を経験します。心理学はこのような心の仕組みを実証的に科学的に研究します。心理学は間口が広く、かつ心理学以外のさまざまな学問領域との接点を持ち、深い人間理解が可能となる学問です。

心理学を学べる大学は全国に数多くありますが、生理、比較、感覚知覚、認知、学習、心理測定、発達、生涯発達、発達臨床、社会、対人関係、集団、臨床、カウンセリング、人格など多岐な分野にわたる心理学者を擁していることが筑波大学の特徴です。入学後は、1年次から心理学について学び始め、2年次、3年次と学習を深めていき、4年次に各自の興味関心に基づいて卒業研究を行います。

社会には心理学類で学んだことを生かせる場があり、一般企業に就職する人も多いですし、専門を生かした職業（少年鑑別所や刑事施設の法務技官（心理）や家庭裁判所の調査官、児童相談所の児童心理司など）に就く人もいます。学校の教員になる人もいます。また、研究者や高度専門職業人を目指して大学院に進学する学生もかなりの数にのほります。みなさんも私たちと一緒に、心の仕組みの不思議を探検してみませんか。

心理学類長 山田 一夫

困った人を助けたい、カウンセラーになって悩みを持つ人の力になりたい!——これが、私が心理学類を志したきっかけでした。しかし、実際に学んでみると、心理学で扱う領域はこれだけに止まりませんでした。行動、発達、対人関係、社会、集団、認知、知覚、記憶、そして臨床など、あらゆる面から人間の「心」にアプローチする、それが心理学です。よく「心理学をやっている人は他人の心が読めるの?」などと聞かれますが、そんなことはありません。心理学は科学であり、目には見えない人間の精神活動を脳科学や生理学、統計の知識をベースとして探求する学問です。

筑波大学人間学群心理学類では、心理学を研究するために必要な統計の知識や方法論から様々な領域の心理学の最先端まで学ぶことができます。今あなたが興味を持っている「心理学」だけでなく、より幅広い知見を得て、そして自分の興味関心に沿ってさらに追究するための絶好の環境が整っています。かつては臨床心理学を専門にしようとして心に決めていた私も、今ではどの領域を専門にするかに頭を悩ませています。皆さんも是非、素晴らしい先生方や仲間たちとともに、人間の「心」を探求してみませんか？

心理学類一期生 市川 玲子

アクセス (詳しくは筑波大学ホームページをご参照下さい。)



電車・バス	秋葉原駅	つくばエクスプレス (快速) 45分	つくば駅・つくばセンター	関鉄バス約15分「筑波大学循環 (右回り、左回り)」にご乗車下さい。		
	上野駅	常磐線 (特急) 40～50分			土浦駅	バス約35～40分
		常磐線 (各停) 60分			ひたち野うしく駅	バス約40～50分
					東京駅	JR・関鉄/バス (八重洲南口発) 約65分
高速バス	羽田空港	京浜急行・関鉄/バス 約120分				
	成田空港	エアポートライナー (NATTS) 約60分				
車	常磐自動車道 桜土浦IC	約20分				

筑波大学人間学群
障害科学類

▶ College of Disability Sciences 2023
School of Human Sciences, University of Tsukuba

障害を理論的・科学的に探求する。
共生社会の実現に貢献する。

特別支援教育や社会福祉に興味がある。

手話や点字を勉強したい。

障の字の勉強

子や人と関わってみたい。

歴史学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

障

歴史学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

障害のある人、高齢者、共に暮らしやすい社会を作りたい。

歴史学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

歴史学・社会福祉学・社会学・臨床心理学・生理学・医学・脳科学・心理学・特別支援教育学

多様な学問の融合から、新たな学問へ そして社会に貢献する人材育成へ

教育目標

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的に身に付け、共生社会の創造に貢献する、国際的に通用する能力をもつ人材を養成します。

コンセプト

障害科学類は、障害を探究し、人間の本質を探究し、人類と社会に貢献する人材を育てる、わが国では他に類を見ないユニークな学類です。障害のある人々への具体的なサポート、その基盤となる基礎的な研究、そして人間の本質そのものを探究します。

特徴

- ・学生の関心や目標に応じた**3つの履修モデル**
- ・**特別支援学校教員免許状**では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）に関する免許の取得が可能
- ・**社会福祉士国家試験受験資格**の取得が可能
- ・**教職免許** 特別支援学校／高校（福祉）／その他、中学校・高校の教科

目次

障害科学類の教育目標	27
障害科学類のコンセプトと特徴	27
学類長あいさつ	28
障害科学の歩み	28
3つの履修モデルと取得可能資格	29
4年間の履修の進め方	30
教員紹介	31
研究室紹介	32
障害科学類生による授業・学生生活の紹介	33
海外留学・研修	35
卒業後の進路	37
進路実績	37
附属学校・関連組織	39
入試情報・高校生のための大学説明会	40

学類長あいさつ

宮本昌子



障害科学類をご案内する本ページへようこそ！ご覧いただき、ありがとうございます。「障害科学」というと、どういう分野なのか、イメージが湧きにくいかもしれません。様々な学問領域の中では比較的新しく、「障害」というものを教育学、心理学、生理学、社会福祉学等を複合させて考える分野です。その土台として特別支援教育（特殊教育）学が歩んだ歴史がありますが、「障害科学」「特別支援教育学」「社会福祉学」の3つのモデルを中心に学ぶことができるよう科目が設置されています。

学生のみなさんは非常に柔軟な発想や思考を携え、大学生活を楽しみに入学されることと思います。「障害」というと、一般的には深刻で辛い側面を思い描かれることが多いと思いますが、日本のように少子高齢化社会を迎えた成熟した社会では、頭を柔らかくし、弱いところだけでなく強みに注目し、逆転の発想で世の中の仕組みを変えたり、問題解決をしたりする人材が必要になるでしょう。そして、この分野の学びには、相手の立場もよく理解できるような資質を持っていることが大変重要です。

障害科学類の4年間では、障害についての知識が深まるとともに、人間を観察する力や、様々な事象を多側面から捉え思考する力が身につくと思います。大学生活においては、健康で思う存分に学び、今しかできない経験を積んでほしいと願っています。

障害科学の歩み

1951年、わが国最初の障害児教育の専門学科である東京教育大学教育学部特殊教育学科が設置されました。1973年の筑波大学への移転を機に、特殊教育学科は心身障害学へと転換しました。心身障害学では、それまで学童期中心の障害児教育から、乳幼児から高齢期までの障害児・者の生涯に渡る総合的支援へと研究領域が拡大されました。さらに2007年、心身障害学は、障害科学に名称を変更し、教育学、心理学、医学・生理学、社会福祉学等を含め、障害の科学的解明と障害児・者の支援を目指す総合的な分野としてスタートしました。

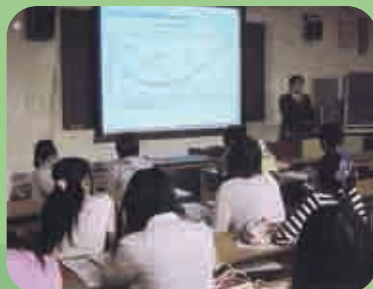


カリキュラムの特徴

3つの履修モデルと取得可能資格

障害科学履修モデル

障害科学類の基本的な履修形態です。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、知的・発達・行動障害学、運動・健康・高齢障害学、音声・言語障害学、障害原理論、障害福祉学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎を修得します。



特別支援教育学履修モデル

わが国における特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指すものです。特別支援教育とは、これまでの特殊教育において培ってきた専門性及び新たに求められる専門性に依拠して、障害がある幼児児童生徒はもとより、さらに地域における発達障害などの教育的ニーズに応じた指導・支援を行うという、いわば新たな学校教育の枠組に基づく教育といえます。特別支援教育学履修モデルでは、障害科学類の充実した人的資源を活用して、特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、履修者に特別支援教育に関わる広い教養と深い専門性を身に付けさせることを意図しています。障害科学類では、5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）すべてを担当できる特別支援学校教諭免許状の取得が可能です。



社会福祉学履修モデル

社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて、ノーマライゼーションという福祉理念を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、社会福祉の現場実習を含めて融合的に学修します。指定された科目を履修することにより、社会福祉士国家試験受験資格を得ることができます。



障害科学類では、学修の参考のためにいくつかの履修モデルを示しています。履修モデルは、その通りに授業をうけなければならないものではありません。ただし、資格と関係する履修モデルは、必要科目が過不足なく含まれていますので、モデルが基準になるでしょう。履修モデルを基に、学ぶ人の希望と意欲に沿った学修計画を立て、自主的に学ぶことになります。

1年・・・障害科学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	自閉症スペクトラム障害臨床実習、重複障害の理解と支援、聴覚障害とリテラシー、高齢障害学、卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど	

1年・・・特別支援教育学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	特別支援学校教諭免許取得に必要な専門科目、視覚障害教育概論、聴覚障害児の教育と指導法、運動障害教育学、健康障害の指導法、知的障害学校教育論、特別支援教育実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど、中学校・高等学校教諭免許（教科）取得のための学群内外の科目の履修など	

1年・・・社会福祉学履修モデル・・・4年

共通科目	専門科目
人間学、体育、外国語、情報	社会福祉士国家試験受験資格取得に対応した専門科目、相談援助の理論と方法、相談援助の基礎と専門職、ソーシャルワーク演習、ソーシャルワーク実習など卒業研究Ⅰ・Ⅱ、日本の障害科学、など
専門基礎科目	
障害科学Ⅰ・Ⅱ、障害科学実践入門、障害原理論Ⅰ・Ⅱ、障害者福祉論Ⅰ・Ⅱ、障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ、Current Topics in Disability Sciences、障害科学研究法入門・実習	
関連科目	
心理学概論、教育基礎論、学校の経営・制度・社会、キャリアデザイン入門・自由研究、人間フィールドワークなど	

障害科学を学ぶモチベーションを高め、学びの基礎を整える

1年
障害科学の基本的な原理を学び、実践現場を見学・参観し、障害科学探究のモチベーションを高めます。また、障害科学を構成する専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解できるようにします。

基礎的能力を身に付け、将来の進路を考える

2年
各専門分野の基礎を学び、障害科学の方法を知ること、自らの修学の到達目標や卒業後の進路を志向します。

障害科学の研究・基礎的実践技術の習得

3年
4年
さまざまな演習や実践を通じて、障害科学の研究手法の基礎を習得したり、自分の選んだ進路に応じ、特別支援教育、社会福祉、発達臨床などに関する実践能力の基礎を身に付けます。また、こうした研究・実践技術に関するカリキュラムは、大学院人間総合科学研究群（前期課程）へ進学し、6年間で習得することを想定して作られています。是非、大学院進学を志してください。

障害科学全般にわたる基礎的能力の養成

4年間の履修の進め方

教員紹介

多様な障害種別、研究手法を網羅するスタッフ陣



研究室紹介

専門家、研究者としてのキャリアにつながる充実した研究環境

視覚障害学

柿澤 敏文 弱視児（者）の視覚特性と ICT、視覚障害原因、アジア・アフリカの視覚障害
小林 秀之 視覚障害児の学習活動に対する教育的支援
佐島 毅 視覚障害学、重複障害児の心理と教育
和田 恒彦 理療（鍼、灸、あん摩マッサージ指圧）科教育、スポーツ障害、障害者スポーツ
工藤 滋 視覚障害者のあん摩マッサージ指圧、鍼灸課程における学習教材、触察指導

徳竹 忠司 視覚障害者への理療技術指導法・東洋医学的物理療法（理療）の生体反応
濱田 淳 理療教育に関する研究、泌尿生殖器系疾患に対する鍼治療
宮内 久絵 視覚障害教育、インクルーシブ教育
ラミチャネ・カマル 諸外国における障害と教育、雇用の連関に関する研究

聴覚障害学

鄭 仁豪 聴覚障害児・者の言語・認知・社会性の発達に関する心理学的研究
原島 恒夫 聴覚障害児（者）の聴覚情報処理、早期教育に関する臨床発達心理および環境論的アプローチ

左藤 敦子 聴覚障害教育、聴覚障害児の言語・認知の発達に関する心理学的研究

知的・発達・行動障害学

柘植 雅義 特別支援教育推進に関する教育学的・行政学的研究／学校における指導・授業に関する教育学的・心理学的研究
熊谷 恵子 学習障害児の学習支援（算数困難等）に関する研究、発達障害児者の感覚過敏に関する研究
野呂 文行 発達障害児の行動心理学的研究
岡崎 慎治 知的障害児及び発達障害児の注意機能に関する生理心理学的研究
小島 道生 知的障害児及び発達障害児の自己に関する研究、ダウン症児者の発達支援に関する研究

米田 宏樹 知的障害教育、インクルーシブ教育、学校・施設・カリキュラム開発史の研究
佐々木 銀河 大学における障害学生支援、発達障害児者に対する支援技術、スタッフトレーニング・マネジメント
小泉 愛美 知的・発達障害児の言語・コミュニケーション発達

運動・健康・高齢障害学

竹田 一則 障害児の医学・生理学・心理学的研究、障害学生支援に関する研究
川間 健之介 運動障害児者の心理、指導法の研究

山田 実 加齢に伴う身体機能低下の予防（介護予防）に関する研究

音声・言語障害学

宮本 昌子 小児の言語発達障害に関する研究、吃音、cluttering など発話の非流暢性障害に関する研究

三盃 亜美 先天性・後天性の読み書き障害に関する認知神経心理学的研究

障害原理論

岡 典子 障害者教育・福祉に関する歴史研究、障害と社会・文化に関する研究、東アジアのインクルーシブ教育に関する比較研究

障害福祉学

小澤 温 障害者に対するケアマネジメントとその評価に関する研究
八重田 淳 職業リハビリテーションカウンセリングに関する研究
山中 克夫 認知症の人のための心理・社会的アプローチ
名川 勝 障害者の地域生活支援と権利擁護、知的障害者等の意思決定支援、大学における障害学生支援

森地 徹 当事者の視点を生かした障害者の地域生活支援に関する研究
大村 美保 障害者の雇用・就労障害者の雇用・就労、所得保障、および地域生活支援
河野 禎之 認知症や LGBTQ を含む多様な属性のひと社会に関する心理・社会的研究、ダイバーシティ&インクルージョン
矢部 愛子 聴覚障害者のコミュニケーション情報保障、ろう学・障害学の混合手法による研究

柘植研究室



私たちの研究室では、知的障害のない発達障害、知的障害、行動障害、それらを重複する場合に関心があり、その理解や指導・支援に関する研究を行っています。また、より広く、特別支援教育やインクルーシブ教育、制度やシステム、障害のない人への対応、保護者への支援、一般市民の理解啓発等、「周りの環境」に関する研究も盛んです。研究対象は、就学前から学童期、青年期、成人期まで様々で、海外の学校や施設をフィールドにした研究や国際比較研究も。研究方法は、事例研究、調査研究、実験研究、質的研究、文献研究等々々。そして、研究成果が如何に実践の場で活用できるか（Evidence-Based Practice and Policy）という点を大切にしています。研究室の構成員は、学類（学部）、大学院博士課程の前期・後期、研究生、研修生と多彩で、年齢も国籍も様々。研究室のセミナーは、毎週全員が一堂に会して行い、個別の研究相談もしています。研究室は、お互いを認め合い寄り添い合う雰囲気で満ち溢れ、その上で、研究は一生懸命にきちんと！構成員の人数も多いことから、仲間同士の教え合いや研究上の悩み事相談などもなされています。

大村研究室



私たちの研究室では、障害のある人の地域生活支援に関する研究を行っています。具体的には、障害者の雇用・就労に関する研究や、障害者虐待防止における基礎自治体の体制整備に関する研究、非行・犯罪行為のある障害者への支援などが最近のテーマです。このような、社会における平等、参加、貧困、社会的排除、虐待、地域での孤立といった現代社会における諸課題の多くは、社会福祉学が対象としています。週1回開催される研究会では、それぞれの知識や能力を持ち寄り、よりよい研究に洗練できるよう、質問や指摘、意見交換を活発に行っています。また、見学・訪問、研修会への参加、経験のある現場職員との意見交換など、実践現場とのつながりを大事にしています。人の生活や社会は複雑であり、標的を明確にして問題構成を浮かび上がらせるのは決して簡単なことではありませんが、苦労してまとめた研究成果をもとにして新たな政策展開が行われるときには、非常に大きなやりがいと達成感を感じます。一つひとつの研究はささやかなものかもしれませんが、障害のある人たちやその支援者・機関に対して研究を通じた貢献ができるよう、日々の研究活動を行っています。

岡崎研究室



私たちの研究室では、注意欠如多動症（ADHD）などの発達障害のあるお子さんの認知発達とその評価の方法、支援の方法について研究を行っています。大学に相談に来られるお子さん等にご協力頂き、認知やその発達にどのような特徴があるのかを調べるために、検査やテストを用いたり、一緒に学習や遊びを通じた支援について考えたりするとともに、その開発にかかわるような基礎的な実験を行ったりもしています。また、行動からではわかりにくい認知の働きを調べるために、脳の電氣的活動を測定（脳波）したり、脳血流の測定をしたりもしています。このように、障害のある人々に関する基礎研究と応用研究を通して、知的発達や認知発達の特徴や独特さを知り、理解や支援につながるような活動を行っているのが研究室の特徴といえるでしょう。学生の皆さんも基礎だけ、応用だけではなく、それぞれの研究活動に関与しながらご自分の研究を進めています。表面的には特徴や困難さがわかりにくい発達障害の理解や支援に興味がある方は、ぜひ障害科学類でその学びを深めていただきたいと思います。

障害科学類生による 授業・学生生活の紹介

卒業研究 2020年度卒 郡司和香



私は大学4年間、障害科学類で障害5領域について様々な授業や実習を受け、自分自身の興味を広げていく中で、特に視覚障害に興味を持つようになりました。卒業研究は約1年間かけて取り組んでいく研究であるため、研究室選びをする際も、興味を持った研究室に何度も見学に行き、先生方とたくさん相談しながら慎重に決めまし

た。その際に、どの研究室の先生も、私がどのようなことに興味があるのかということについて熱心に話を聞いてくださり、多くのアドバイスをいただくことができました。そのように研究室訪問を重ね、視覚障害を専門としている柿澤敏文先生のもとで、視覚障害女性がメイクをする上でどのような困難を抱えているのかということについての実態調査を行いました。卒業研究を通して、対象者にアポをとり日程調整をしてインタビュー調査を行うという貴重な経験をすることができました。実際に視覚障害のある方々にお話を伺うことができたことも私の中で大きな財産となったように思います。卒業研究を行うにあたって、最初のうちは、漠然と視覚障害について研究ができればいいな、という考えがあったくらいで、先輩方のように論文を執筆することができるのか、不安を抱えていました。しかし、研究の進め方や分析方法について行き詰まってしまった時や不安なことがあったときは、その都度、指導教員の先生や同じ研究室に所属する先輩方、同期の友人と協力し合いながら研究を進め、意義のある経験となりました。卒業論文が完成した時の達成感は忘れられません。障害科学類は教員の研究分野も幅広く、きっと皆さんのやりたい研究ができると思います。是非、皆さんも障害科学類で自分の興味の幅を広げてくれるような研究をしましょう！



講義と実践の双方から、広く、深い学びを 4年 苔米地柚季



全国で唯一の障害科学類を有する筑波大学では、専門的な講義と同時に、障害学生支援や附属特別支援学校との関わりからも多くを学ぶことができます。私もピア・チューターとして情報支援に携わったり、附属特別支援学校の生徒に大学を案内する活動に参加したりしています。

また、所属する手話サークルとスポーツ支援サークルの活動を通じ、筑波技術大学の学生や知的障害のある青年との交流も楽しんでいます。放課後等デイサービスやヘルパーのアルバイト、学習支援団体でのボランティアも始めました。様々な活動に挑戦するなかで、大学での講義と実際の経験の双方から学びを深められ、日々充実しています。大学内外にこうした環境が整っている点、ネットワークによって多様な活動に参加できる点も障害科学類の魅力だと思います。また、総合大学である筑波大学では、他学類の授業の履修や学生との交流も容易です。私も国際系学生団体に所属し、異分野の仲間との活動から、新たな知識を得ると共に、途上国の障害者支援について視野を広げることができました。講義と実践の双方から広く・深く学べる障害科学類で一緒に様々な挑戦をしませんか？

相談援助の理論と方法Ⅰ 4年 片庭希海



私は社会福祉士の資格を取得して福祉に携わる仕事に就くことを目指しており、その中で相談援助の理論と方法Ⅰという授業を受講しました。この授業では「ソーシャルワークとは何か」ということがテーマの1つとして設けられており、ソーシャルワーカーとして支援するとはどのようなことなのか、といった根本的なことについてじっくり考

えることができます。特に、個人だけでなく家族やグループ、地域を対象としたソーシャルワークもあるという学びは、ソーシャルワークに関する自身の考えを深めるきっかけになったと感じています。また、講義形式の授業ではあるものの、グループワークが多くあり、事例などについて検討しながら他の受講生と考えを共有することができました。社会福祉学履修モデルの授業では、その他にもグループワークなどを通して他の学生と話し合う機会が多くあり、様々な考え方や価値観に触れて刺激を受けることができる点が魅力だと思います。



やりたいことが出来る環境 4年 高岡 杏



私は重度の運動障害を持っていて、授業は運動障害支援チームからピア・チューターを派遣してもらい、ノートテイクを頼んでいます。また、ヘルパーを利用して学生宿舍のバリアフリーが整っている部屋で一人暮らしをしていたり、周りの方々に助けてもらいながらの大学生活ですが、とても楽しいです。私は教職課程なので特別支援教育につい

てや、ほかの学群に教科の科目を取りに行ってます。教職以外の福祉系の科目も取ることができるので、自分の興味の幅が広がることが障害科学類の魅力だと思います。先生に教えていただいた交流会などに参加してみることも自分が知らなかった世界が発見でき、おすすめです。また、私は学園祭実行委員会の委員長を務めていて、全学規模で色々なことを見ることは大変な部分もありますが、一生に一度の経験だと思うので楽しみながらやっています。このように大学生活はやりようと思えばなんでも出来るので、みなさんも色々なことにチャレンジしてみてください！

充実した学びを仲間とともに 4年 鶴田絢子



皆さんこんにちは！障害科学類は、障害に関する様々な学問を専門とする多くの先生方がいらっしゃるため、障害を中心として、教育、福祉など様々な方面からアプローチできる環境が整い、さらに興味があることを深めて専門的に学ぶことができるユニークな学類です。私は特別支援教育を中心に学んでいますが、各領域について基礎か

ら専門まで学ぶ講義はもちろんのこと、筑波大学にある5校の附属特別支援学校の先生方から学校での実践を踏まえた講義も受けています。各領域の類似点、相違点など多くの気づきがあり、充実しています。また、ユニークな学類であるためか、全国各地から仲間が集まります。各々に考えがあり、広くアンテナを張っている人が多いです。仲間から刺激を受け、時には議論をすることも。このような仲間との出会いがあることも障害科学類の良さであると思っています。皆さんも障害科学類で学んでみませんか？キャンパスのどこかで出会えることを楽しみにしています。

筑波大学は全国の障害学生支援の中心 4年 小林愛佳



筑波大学には障害学生が多く在籍しており、彼らの学生生活をサポートするために学生が主体の障害学生支援活動が行われています。講座を受講した学生が支援活動を行う「ピア・チューター制度」がその一つです。支援活動の内容は様々で、ノートテイク、PC要約筆記、資料のテキストデータ化などを障害学生のニーズに応じて行っ

ています。障害学生自身もピア・チューターとして支援チームの運営やピア・チューターの養成に参加するなど、一般学生と障害学生が協力して活動しています。私はコーディネーターという、支援を必要とする障害学生と支援可能な学生を調整する立場から障害学生支援活動に携わりました。その中で、ピア・チューターが制度として設けられていることで、障害学生にとって学びやすい環境を目指すことと支援学生が無理せず支援活動を行うことが両立されていると感じました。筑波大学の充実した障害学生支援にも興味を持っていただき、いつかみなさんと一緒に活動できたら嬉しいです。

障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ 3年 加藤悠介



私は現在障害科学履修モデルを選択し、障害に関する知識や技能を習得し自らの糧とするために日々研鑽を積んでいます。1年次の秋学期ABモジュールを受講した『障害者教育基礎理論』はⅠとⅡに分かれています。

Ⅰでは、障害のある子どもへの教育的アプローチが長い歴史の中でどのように始まり、発展していった

のかを世界と日本という2つの側面から概観します。障害の種類によって、教育が始まった時期・方法が発展した時期が大きく異なることを知ることができます。Ⅱでは、主に戦後日本の障害児教育の発展について学んでいきます。通級による指導制度やインクルーシブ教育システムについても多く触れます。どちらの授業も、多くの資料や論文を参考に進められますが、映像を参照することもありました。受講を通して、教育と時代背景・人々のかかわり方について深く考えることができます。担当のお二人の先生も、ユーモラスかつ丁寧に教えてくださいます。授業を受ける中で、さまざまな意見や考えが生まれてくると思います。それをきちんと言葉にし、まとめることが大切です。障害に興味のあるみなさん、私たちと一緒にもっと障害を知り、学びを深めてみませんか？



自分たちの可能性に気づく学生生活

3年 増村 裕



私は2020年度入学生で、遊びも勉強も思う存分できる筑波大学の生活を楽しみにしていました。そんな中、新型コロナの影響で入学式は中止になり、授業もオンラインになりました。入学式は大学生としての象徴的な出来事です。中止されたことで、気持ちが置いて行かれたような状態になり、私は、クラスの仲間数人と、入学式

を自分たちでつぐれないかと考えました。ただ、大学に入ってからすぐのことだったので自分たちがどのように動いたらよいのか、何もわからない状態でした。そんな中、T-ACTという学内の組織を知り、T-ACTの先生方からまず何をしたらよいのか、どのようにチームを運営していくかなどを教えてくださいました。筑波大学には、自分たちが企画のプランナーになったり、オーガナイザーになったり、実際にそれを運用するボランティアになったり等、主体的に活動できる環境が整っています。自ら体験し、自分たちの可能性に気づく、そんなキャンパスライフ、一緒に送ってみませんか。

英語で積極的にディスカッションする授業 「Current Topics in disability Sciences」

3年 Lam Yan Tung



Current Topics in disability Sciencesの授業では、インクルーシブ教育の概念や意義について触れ、日本における障害教育福祉を踏まえ、海外の状況と比較しながら学びます。この授業は主に英語で行い、先生をはじめとして多くの留学生がいるため、この授業ならではの文化的背景の異なる環境で、互いの意見を自由に交わす貴重な時間だと考えます。このような異文化ディスカッションを通して、多様な価値観に触れて自身の先入観を問い直し、視野を広げる機会だと思います。今年度は新型コロナウイルスの影響により、対面授業に代わるリアルタイムのZoomディスカッション及びオンデマンド型の授業を併せたハイブリッドの形で授業を実施しました。

最初は「英語でどう言えばいいのかわからない」、「人前で英語で発表するのは無理」など、英語に不安を感じる人が多いと思いますが、英語は話せば話すほど上達するため、次第に英語で自分の考えが伝えられるようになると思います。授業中には間違いに怯えず、自信を持って積極的に英語でディスカッションを進めてみてください！応援しています！

障害科学類の魅力

3年 渡辺奈桜



障害科学類は、様々な障害について、福祉・教育・医療等の面からアプローチすることができます。私は現在社会福祉士取得を目指しており、福祉についての幅広いことを学べたり、グループワークを通じた実践的な学習ができたりする授業をとっています。福祉以外にも障害科学類で開講されている特別支援教育や原理論のような授業をとり、障害について考えています。

また筑波大学は総合大学であり、所属する学類以外の授業を受講することができます。他学類の授業をとることで教養を身に付けられたり、障害についても違った観点から学べたりします。

私個人としては放課後等デイサービスでのバイト、アカペラサークルへの所属など、充実した日々を送っています。また、T-ACTとして障害理解のためのボードゲーム作成に参加したり、人間フィールドワークという模擬研究室での体験で論文購読や福祉施設見学をしたりしました。たくさんの有意義な体験をすることができたと思っています。障害科学類は自分自身と向き合い、興味関心のあること、やりたいことに対して夢中で取り組むことができる学類です。互いに高め合える仲間、熱心に指導をしてくださる先生方とともに、夢に向かっての第一歩を踏み出してみませんか？



海外留学・研修

障害科学類では、筑波大学や人間学群で交流協定を結んでいる海外の大学に留学する機会を設けています。協定校への留学は以下の大きなメリットがあります。

- ・留学期間は、本学での在籍年限に換算される
- ・授業料相互不徴収に関する協定を締結している協定校であれば、相手大学での授業料が免除
- ・留学先で履修した単位が本学の卒業条件となる単位に認めることが出来る
- ・学内外の奨学金に申請可能

協定校の例：ドイツ・ミュンヘン大学、米国・南インディアナ大学、韓国・釜山大学他多数。

詳しくはHP（<https://www.bgi.sec.tsukuba.ac.jp/partner-organizations/>）をご覧ください。

これ以外に、海外研修にも積極的に参加しています。



附属学校 関連組織

附属学校

筑波大学には、11の附属学校のうち5つの特別支援学校があり、大学と連携して教育活動をおこなっています。見学や授業参観、そしてボランティアなどを通して障害のある子どもと彼らへの支援の実践について理解を深めることができます。



附属大塚特別支援学校（東京都文京区）
<https://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/>



附属久里浜特別支援学校（神奈川県、横須賀市）
<https://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/>



附属視覚特別支援学校（東京都、文京区）
<https://www.nsfb.tsukuba.ac.jp/>



附属聴覚特別支援学校（千葉県、市川市）
<https://www.deaf-s.tsukuba.ac.jp/>



附属桐が丘特別支援学校（東京都、板橋区）
<https://www.kurihama.tsukuba.ac.jp/>

関連組織

以下の関連組織もあります。

- ① 附属学校教育局
<https://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/>
- ② 教育開発国際協力研究センター
<https://www.criced.tsukuba.ac.jp/>
- ③ 心理・障害相談室（筑波キャンパス）
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/IDS3/counsel/outline.html>
- ④ ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター（アクセシビリティ）
<https://dac.tsukuba.ac.jp/shien/>

筑波大学では全学で100人以上の障害のある学生が学んでおり、トレーニングを受けた学生が「ピア・チューター」として支援活動に携わっています。入学式や大学説明会などでもピア・チューターが活躍しています。



ピア・チューター養成講座の様子

入試についての問い合わせ先

- ① 筑波大学ホームページ（入試情報）
<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/>
- ② 筑波大学教育推進部入試課
TEL: 029(853)6007

高校生のための大学説明会

毎年8月と3月に、筑波大学において高校生のための大学説明会を行っています。全国から多くの高校生が集まって、プレセミナーを通して障害科学を実体験します。最新の情報は障害科学類ホームページのトピックをご覧ください。



筑波大学までの交通

■つくばエクスプレス:

- ・秋葉原駅からつくば駅まで最速45分
- つくばセンターから「筑波大学中央」行バス（約10分）
- 「筑波大学循環（右回り）（左回り）」バス（約10～15分）

■JR常磐線:

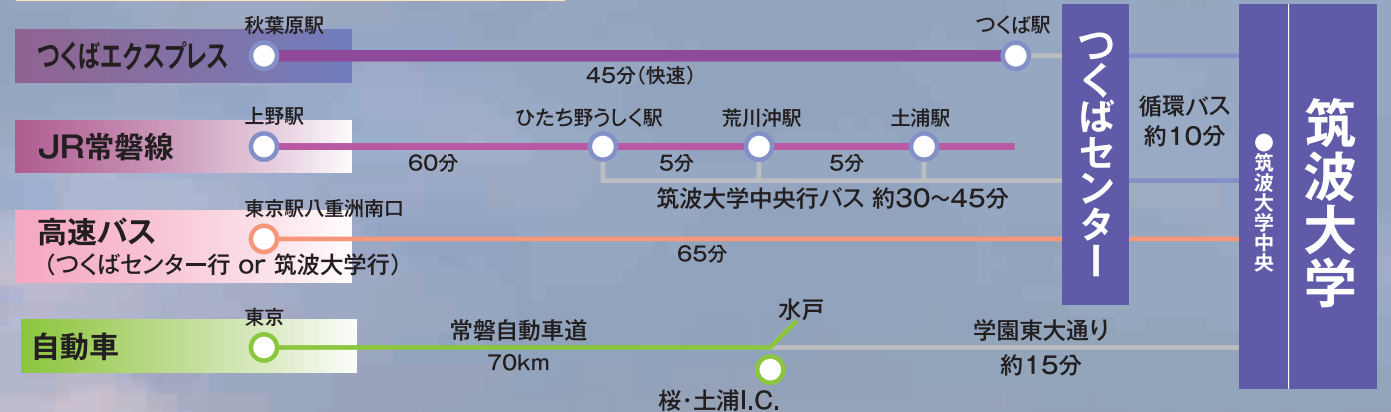
- ・ひたち野うしく駅 バスターミナル東口から「筑波大学中央」行バス（約45分）
- ・荒川沖駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス（約35分）
- ・土浦駅 バスターミナル西口から「筑波大学中央」行バス（約30分）

■高速バス:

- 東京八重洲南口から「筑波大学」行高速バス（約75分）

■自動車:

- 常磐自動車道「桜土浦」I.C.下車、「東大通り」を北上し、筑波大学中央入口 到着（約15分）



人間学群の教員

教育学類	心理学類	障害科学類
磯田 正美	綾部 早穂	岡 典子
井田 仁康	安藤 智子	小澤 温
唐木 清志	岡田 昌毅	柿澤 敏文
國分 麻里	佐藤 有耕	川間 健之介
佐藤 博志	沢宮 容子	熊谷 恵子
清水 美憲	杉江 征	竹田 一則
濱田 博文	外山 美樹	鄭 仁豪
樋口 直宏	濱口 佳和	柘植 雅義
藤井 穂高	原田 悦子	野呂 文行
藤田 晃之	原田 隆之	原島 恒夫
上田 孝典	藤生 英行	宮本 昌子
長田 友紀	山田 一夫	山田 実
川口 純	飯田 順子	岡崎 慎治
金 玆辰	大塚 泰正	小島 道生
小松 孝太郎	加藤 克紀	小林 秀之
タスタンベコワ・クアニシ	川上 直秋	佐々木 銀河
田中 正弘	高橋 阿貴	佐島 毅
田中 マリア	パスクアロット・アキッレ	左藤 敦子
平井 悠介	藤 桂	宮内 久絵
平田 諭治	水野 雅之	八重田 淳
蒔苗 直道	安 婷婷	山中 克夫
山本 容子	田中 崇恵	米田 宏樹
朝倉 雅史	慶野 遙香	ラミチャネ・カマル
遠藤 優介	菅原 大地	和田 恒彦
勝田 光	千島 雄太	徳竹 忠司
菊地 かおり	仲田 真理子	名川 勝
京免 徹雄	生田目 光	濱田 淳
徳永 智子	松田 壮一郎	大村 美保
名畑目 真吾	山口 一大	河野 禎之
古田 雄一	小川 緑	工藤 滋
早瀬 博典	佐越 祥子	三丕 亜美
	中澤 佳奈子	末吉 彩香
		森地 徹
		小泉 愛美
		矢部 愛子

(令和4年7月1日現在)



College of Disability Sciences 2023
School of Human Sciences, University of Tsukuba

筑波大学ホームページ(入試情報)

<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/>

入試についての問い合わせ先 筑波大学教育推進部入試課

人間学群障害科学類

<https://www2.human.tsukuba.ac.jp/ids/shougai>



筑波大学 学群入学試験に関するお問合せ先

筑波大学 教育推進部 入試課

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

Tel. 029-853-6007

Fax. 029-853-6008

<https://www.tsukuba.ac.jp/admission/>